

## Ⅱ アンケート調査の結果



## 第1章 調布市民の福祉意識と地域生活に関する調査

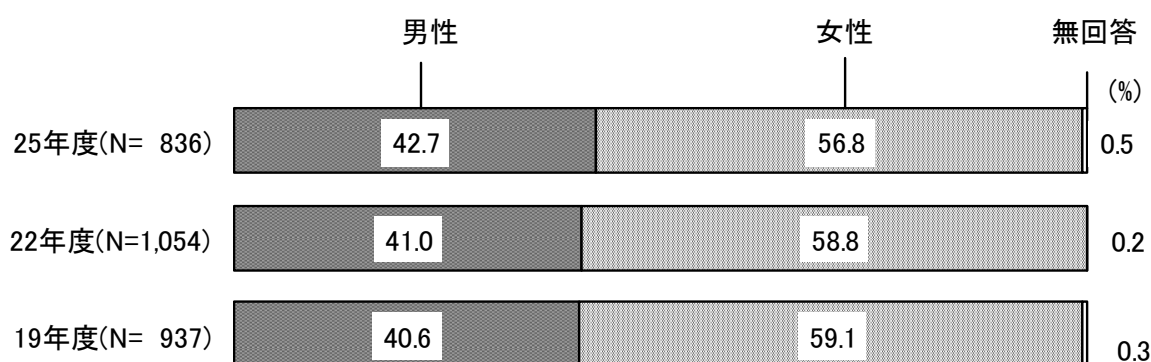
### 1 基本属性

#### (1) 性別（問1）

問1 あなたの性別は次のうちどれですか。（1つに○）

男性が42.7%，女性が56.8%である。22年度と比較すると，男性，女性ともに割合がほぼ同じである。

図表 1-1 性別（全体）【前回比較】

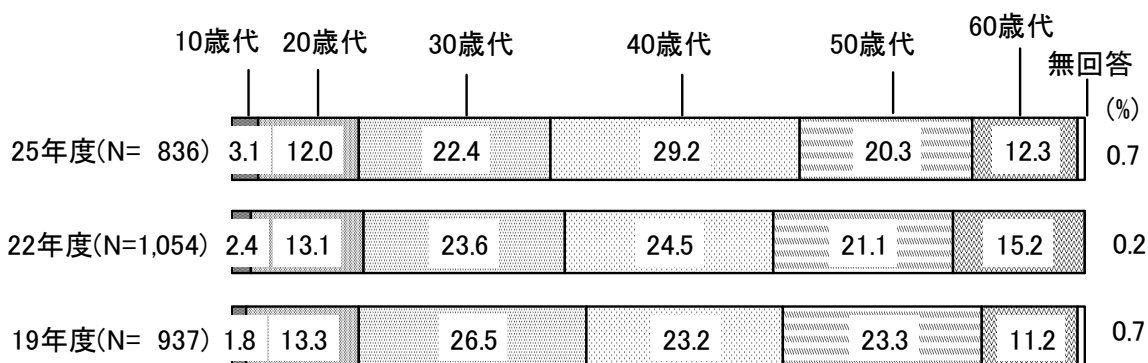


#### (2) 年齢（問2）

問2 あなたの平成25年10月1日現在の年齢をご記入ください。

年齢は、「40歳代(29.2%)」が最も多く、「30歳代(22.4%)」，「50歳代(20.3%)」が続いている。平均は43.4歳である。前回と比較すると，徐々に40歳以上の割合が高くなっている。

図表 1-2 年齢（全体）【前回比較】

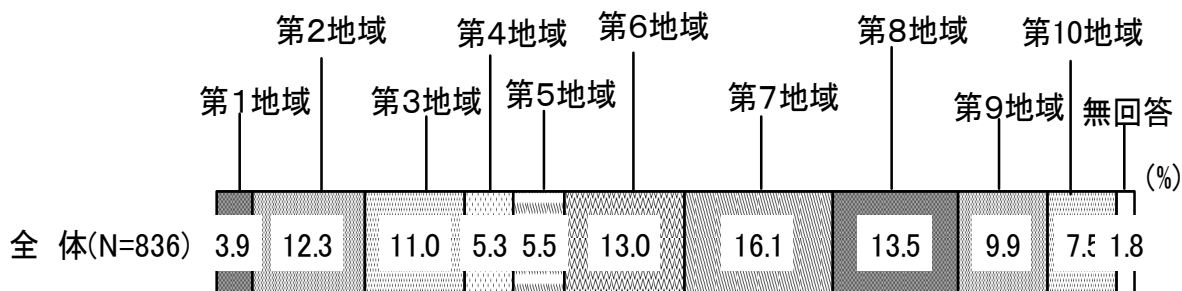


(3) 居住地域（問3）

問3 お住まいの地域はどこですか。記入例を参考に、【町名】、【丁目】をご記入ください。

居住地域は、「第7地域（16.1%）」が最も多く、「第8地域（13.5%）」、「第6地域（13.0%）」が続いている。

図表 1-3 居住地域（全体）

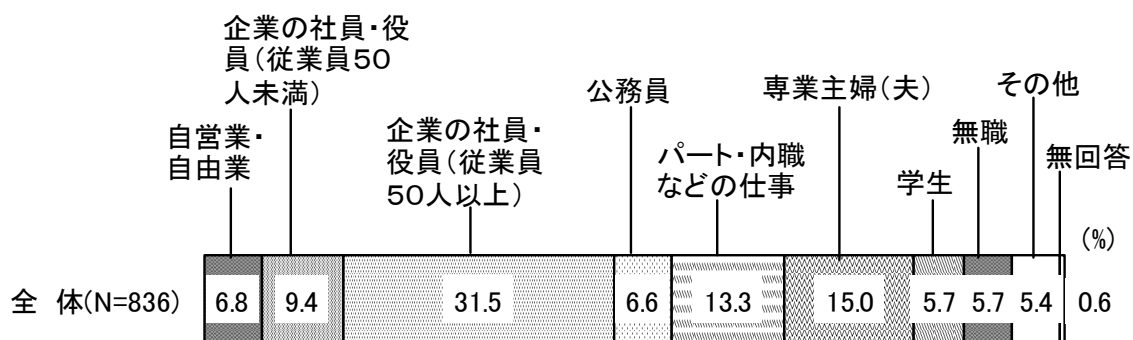


(4) 職業（問4）

問4 あなたのご職業は次のうちどれですか。（1つに○）

「企業の社員・役員（従業員50人以上）（31.5%）」が最も多く、「専業主婦（夫）（15.0%）」、「パート・内職などの仕事（13.3%）」が続いている。

図表 1-4 職業（全体）



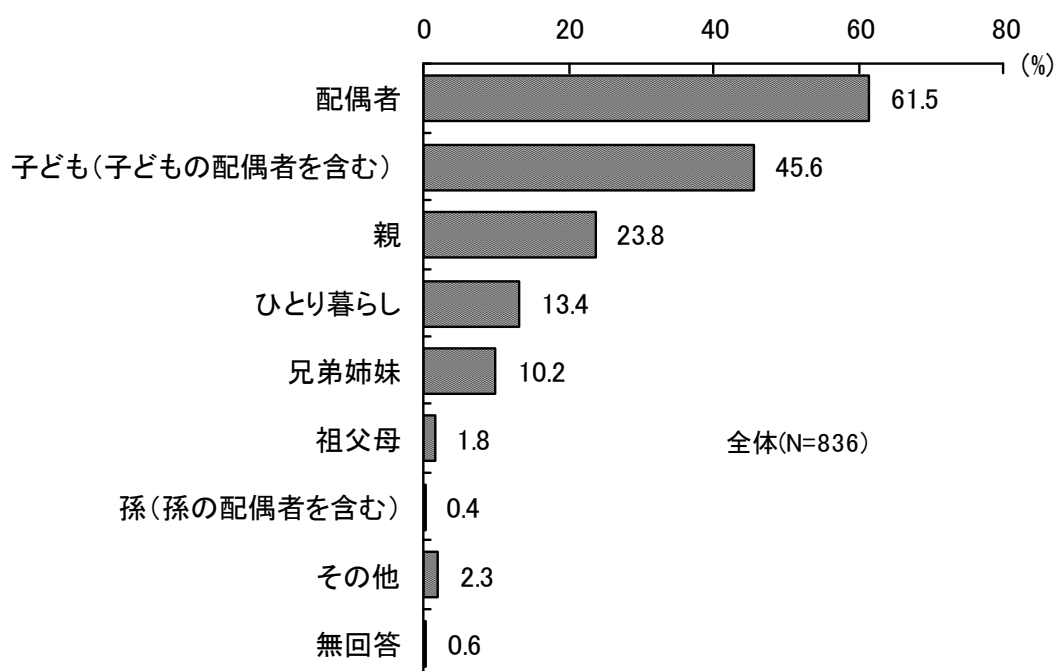
## 2 住まいや居住の様子

### (1) 同居家族（問5）

問5 現在、あなたがいっしょに暮らしているご家族は、あなたからみて、どなたですか。  
(いくつでも○)

一緒に暮らしている家族は、「配偶者 (61.5%)」が最も多く、「子ども (子どもの配偶者を含む) (45.6%)」, 「親 (23.8%)」が続いている。「ひとり暮らし」は13.4%である。

図表 1-5 同居家族（全体：複数回答）

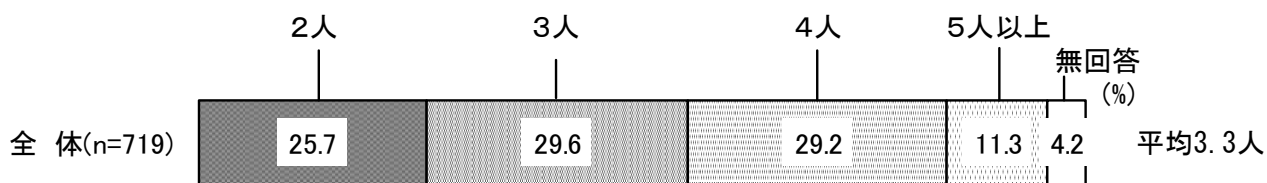


### (2) 家族人数（問5-1）

問5-1 問5で2～8（同居人がいる世帯）と答えた方におたずねします。現在いっしょに暮らしているご家族はあなたを含めて何人ですか。数字をご記入ください。

ひとり暮らし以外の、本人も含めた一緒に暮らしている家族の平均人数は3.3人である。

図表 1-6 家族人数（全体）＜ひとり暮らしを除く＞

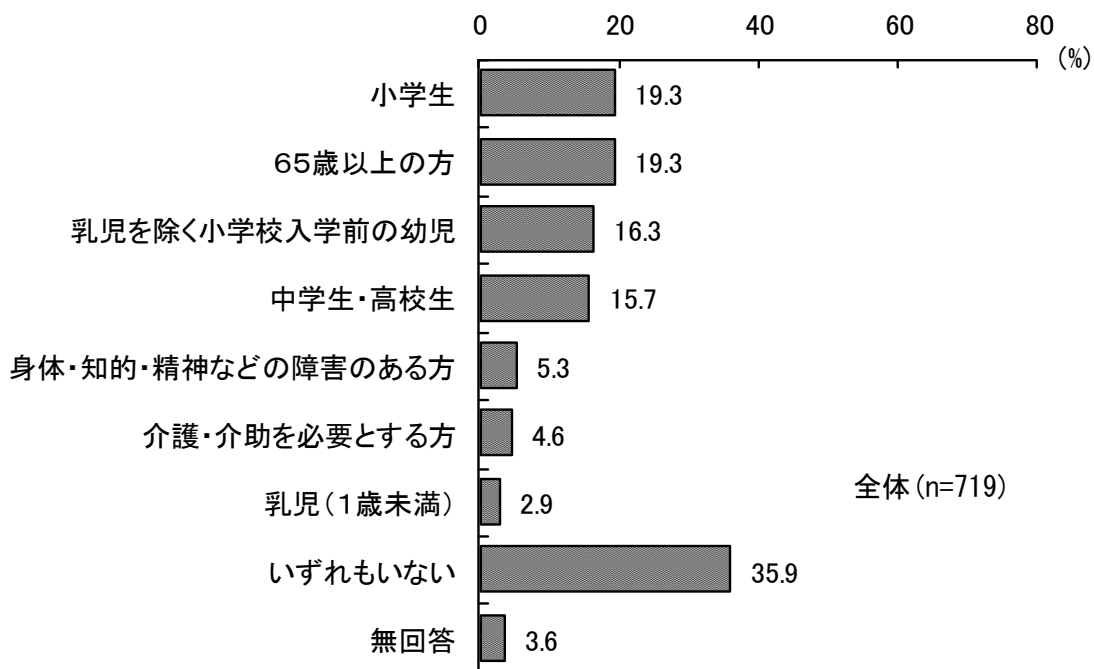


(3) 一緒に暮らしている人（問5-2）

問 5-2 問5で2～8（同居人がいる世帯）と答えた方におたずねします。現在、あなた自身、もしくは同居のご家族に次のような方はいますか。（いくつでも○）

ひとり暮らし以外の本人または一緒に暮らしている家族の属性は、「小学生（19.3%）」、「65歳以上の方（19.3%）」、「乳児を除く小学校入学前の幼児（16.3%）」、「中学生・高校生（15.7%）」、「身体・知的・精神などの障害のある方（5.3%）」、「介護・介助を必要とする方（4.6%）」、「乳児（1歳未満）（2.9%）」である。

図表 1-7 一緒に暮らしている人（全体：複数回答）  
 <ひとり暮らしを除く>



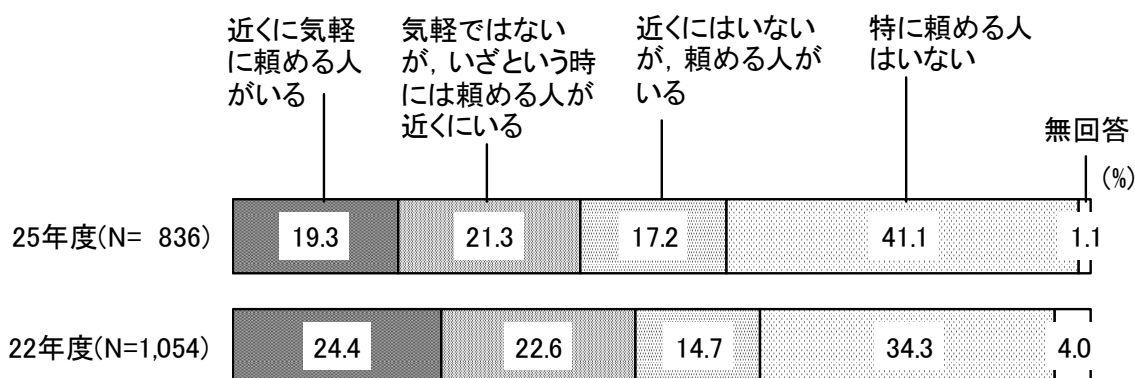
(4) 手助けを頼める親族・知人の有無（問6）

問6 あなたのお住まいの近く（おおむね徒歩30分以内）には、食事や介護、子育てを助け合ったりする親族や友人・知人がいらっしゃいますか。（1つに○）

近くに助け合ったりする親族や友人・知人の有無は、「気軽ではないが、いざという時には頼める人が近くにいる」が21.3%、「近くに気軽に頼める人がいる」が19.3%、「近くにはいないが、頼める人がいる」が17.2%で、頼める人がいる割合は57.8%であった。一方、「特に頼める人はいない」は41.1%である。

前回調査と比較すると、「近くに気軽に頼める人がいる」が22年度では24.4%に対し、25年度は19.3%と5.1ポイント低くなっている。

図表 1-8 手助けを頼める親族・知人の有無（全体）【前回比較】

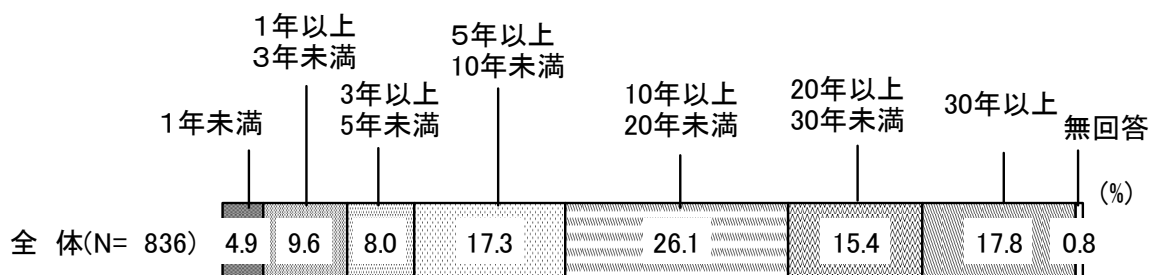


(5) 居住年数（問7）

問7 あなたは調布市に何年お住まいですか。（1つに○）

「10年以上20年未満（26.1%）」が最も多く、「30年以上（17.8%）」、「5年以上10年未満（17.3%）」、「20年以上30年未満（15.4%）」が続いている。「1年未満」は4.9%である。

図表 1-9 居住年数（全体）

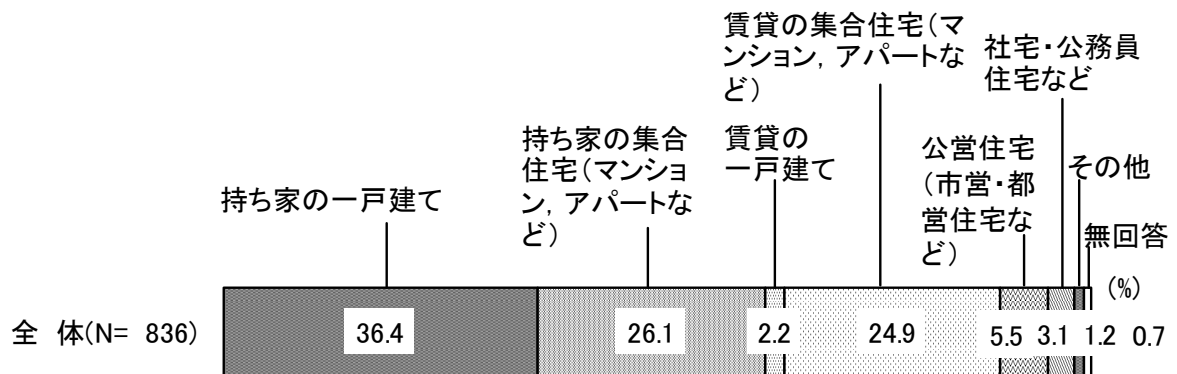


(6) 住居形態（問8）

問8 あなたのお住まいは、次のどれですか。（1つに○）

「持ち家の一戸建て（36.4%）」が最も多く、「持ち家の集合住宅（マンション・アパートなど）（26.1%）」、「賃貸の集合住宅（マンション、アパートなど）（24.9%）」が続いている。

図表 1-10 住居形態（全体）





### 3 地域生活の状況

#### (1) 近所づきあいの状況（問9）

問9 あなたは、日ごろどのような近所づきあいをしていますか。（1つに○）

日ごろの近所づきあいの状況をたずねたところ、「あいさつをする程度のつきあいをしている（51.8%）」が最も多く、「立ち話をする程度のつきあいをしている（22.0%）」、「家を行き来するなど、親しく近所づきあいをしている（8.5%）」が続いている。「近所づきあいをしていない」は、17.2%である。

性・年代別では男女とも年代があがるにつれ「立ち話をする程度のつきあいをしている」の割合が高くなる傾向が見られる。特に女性の60歳代では「立ち話をする程度のつきあいをしている（38.6%）」が「あいさつをする程度のつきあいをしている（36.8%）」を上回り最も高い割合となっている。

居住地域別では第1地区で「家を行き来するなど、親しく近所づきあいをしている」が15.2%で高くなっている。

家族構成別ではひとり暮らしが「近所づきあいをしていない」が44.6%となっている。

地域のつながりの必要性別ではどちらかといえば、必要ないと思う、必要ないと思うと回答した人の「近所づきあいをしていない」の割合が高くなっており、地域のつながり感別ではとても感じると回答した人は「家を行き来するなど、親しく近所づきあいをしている」の割合が高くなっている。これらの結果から、地域のつながりについての意識が近所づきあいに反映されているものと考えられる。

II アンケート調査の結果

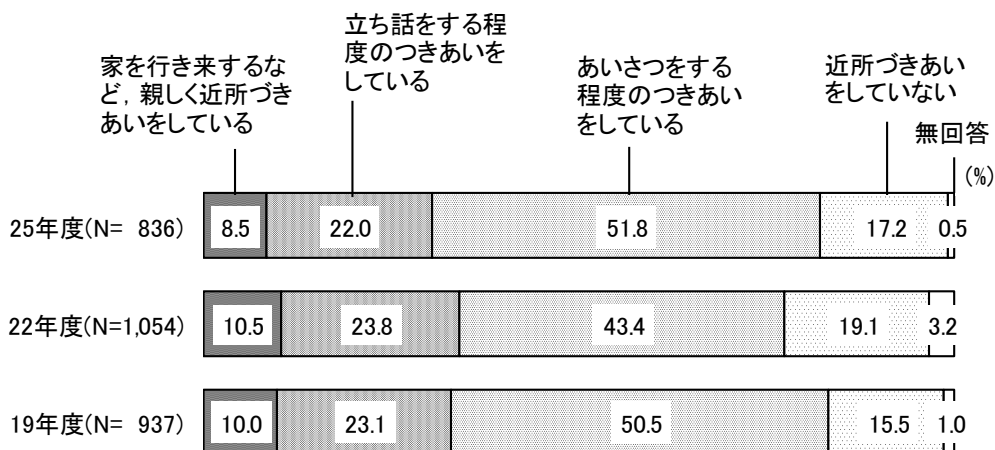
図表 1-11 近所づきあいの状況

(全体、性・年代別、居住地域別、家族構成別、地域のつながりの必要性別)

		あど家 い、を を親 をし して く来 す近 る所 づき	つ立 きあ 話を する する 程度 の	るの あ つき さつ あ い を す る 程 度 の	い近 所 づ き あ い を し て	無 回 答	
全 体 (N=836)		8.5	22.0	51.8	17.2	0.5	
性・年代別	男性	10歳代 (n=9)	22.2	0.0	55.6	22.2	0.0
		20歳代 (n=44)	4.5	4.5	61.4	29.5	0.0
		30歳代 (n=73)	2.7	9.6	60.3	26.0	1.4
		40歳代 (n=107)	4.7	18.7	56.1	20.6	0.0
		50歳代 (n=75)	4.0	21.3	60.0	14.7	0.0
		60歳代 (n=46)	2.2	28.3	45.7	21.7	2.2
	女性	10歳代 (n=17)	17.6	0.0	64.7	17.6	0.0
		20歳代 (n=56)	3.6	7.1	67.9	21.4	0.0
		30歳代 (n=113)	19.5	19.5	50.4	10.6	0.0
		40歳代 (n=137)	8.8	32.8	41.6	16.1	0.7
		50歳代 (n=94)	11.7	29.8	46.8	11.7	0.0
		60歳代 (n=57)	10.5	38.6	36.8	12.3	1.8
居住地域別	第1地域 (n=33)	15.2	27.3	39.4	18.2	0.0	
	第2地域 (n=103)	5.8	21.4	53.4	19.4	0.0	
	第3地域 (n=92)	8.7	26.1	41.3	23.9	0.0	
	第4地域 (n=44)	11.4	20.5	56.8	11.4	0.0	
	第5地域 (n=46)	6.5	34.8	47.8	10.9	0.0	
	第6地域 (n=109)	8.3	19.3	56.0	15.6	0.9	
	第7地域 (n=135)	10.4	17.8	54.8	15.6	1.5	
	第8地域 (n=113)	7.1	22.1	54.9	15.9	0.0	
	第9地域 (n=83)	10.8	21.7	50.6	16.9	0.0	
	第10地域 (n=63)	3.2	20.6	54.0	20.6	1.6	
別 構家 成族	ひとり暮らし (n=112)	3.6	10.7	41.1	44.6	0.0	
	その他 (n=719)	9.3	23.8	53.4	12.9	0.6	
必 地 な地 要が 域 性 り の 別 の つ	とても必要だと思う (n=306)	11.4	29.7	49.7	8.5	0.7	
	どちらかといえば、必要だと思う (n=485)	7.2	18.1	52.8	21.4	0.4	
	どちらかといえば、必要ないと思う (n=26)	0.0	11.5	53.8	34.6	0.0	
	必要ないと思う (n=10)	0.0	10.0	50.0	40.0	0.0	

前回調査と比較すると、「近所づきあいをしていない」が22年度は19.1%であるのに対し、25年度は17.2%と1.9ポイント低くなっている。

図表 1-12 近所づきあいの状況（全体）【前回比較】



(2) 近所づきあいをしていない理由（問9-1）

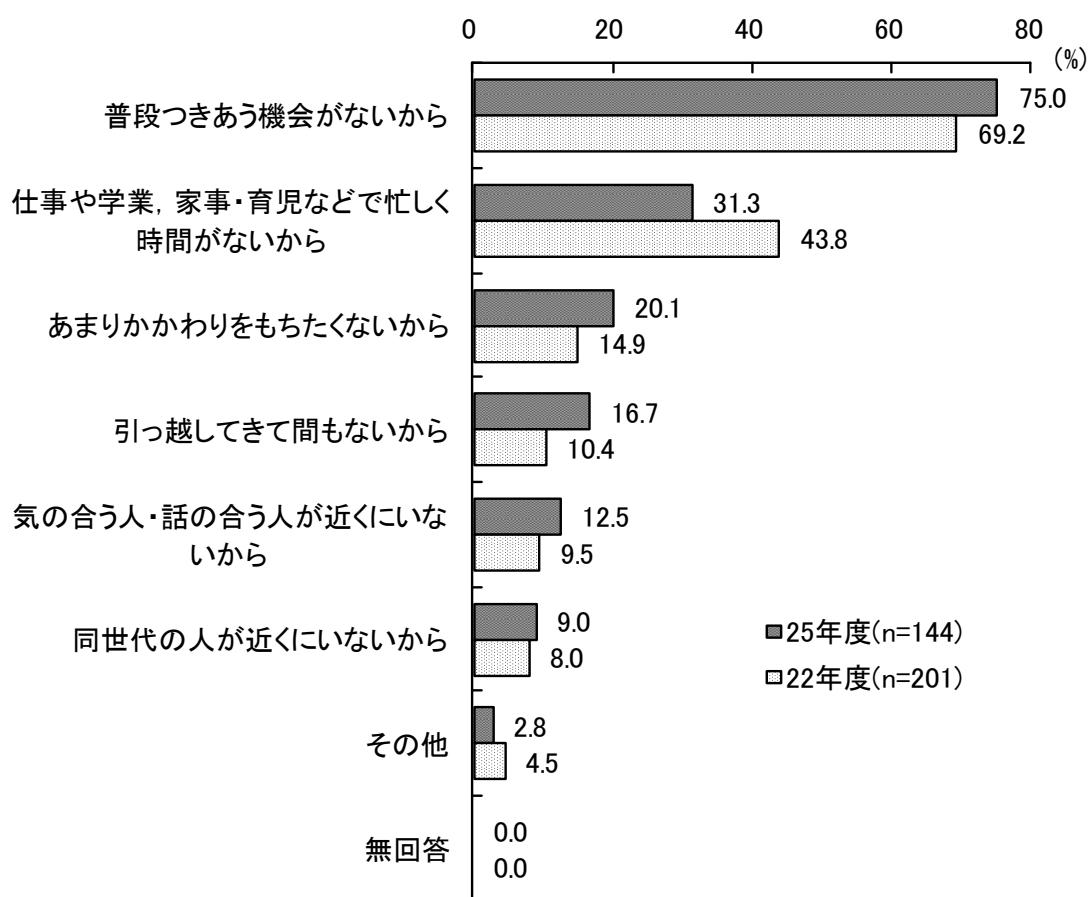
問9-1 問9で「4. 近所づきあいをしていない」と答えた方におたずねします。近所づきあいをしていない主な理由は何ですか。（いくつでも○）

近所づきあいをしていないと回答した人に、近所づきあいをしていない主な理由をたずねたところ、「普段つきあう機会がないから（75.0%）」が最も多く、「仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから（31.3%）」、「あまりかかわりを持ちたくないから（20.1%）」、「引っ越してきて間もないから（16.7%）」が続いている。

前回と比較すると、「普段つきあう機会がないから」が22年度では69.2%に対し、25年度では75.0%で5.8ポイント高くなっている。「仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから」が22年度では43.8%に対し、25年度では31.3%で12.5ポイント低くなっている。

図表1-13 近所づきあいをしていない理由（全体：複数回答）【前回比較】

<近所づきあいをしていない人>



(3) 自治会の加入状況（問 10）

問 10 あなたは自治会に加入していますか。（1つに○）

自治会の加入状況は、「加入していない（45.7%）」が「加入している（38.4%）」を上回っている。

性・年代別にみると、男性の60歳代と女性の50歳代でそれぞれ58%台と他の性・年代より高い割合となっている。

居住地域別では、第10地域は「加入していない（58.7%）」が「加入している（30.2%）」を28.5ポイント上回っている。

住居形態別では、賃貸の集合住宅は「加入していない」が80.3%、公営住宅は「加入している」が65.2%と加入状況は異なっている。

図表 1-14 自治会の加入状況（全体、性・年代別、居住地域別、住居形態別）

			加入している	加入していない	分からない	無回答
全 体 (N=836)			38.4	45.7	15.3	0.6
性・年代別	男性	10歳代 (n=9)	33.3	22.2	44.4	0.0
		20歳代 (n=44)	13.6	45.5	40.9	0.0
		30歳代 (n=73)	19.2	64.4	15.1	1.4
		40歳代 (n=107)	41.1	45.8	13.1	0.0
		50歳代 (n=75)	44.0	44.0	10.7	1.3
		60歳代 (n=46)	58.7	34.8	4.3	2.2
	女性	10歳代 (n=17)	23.5	41.2	35.3	0.0
		20歳代 (n=56)	37.5	46.4	16.1	0.0
		30歳代 (n=113)	23.0	61.1	15.9	0.0
		40歳代 (n=137)	40.9	43.1	15.3	0.7
		50歳代 (n=94)	58.5	31.9	8.5	1.1
		60歳代 (n=57)	50.9	36.8	12.3	0.0
居住地域別	第1地域 (n=33)	39.4	45.5	15.2	0.0	
	第2地域 (n=103)	40.8	42.7	16.5	0.0	
	第3地域 (n=92)	29.3	50.0	20.7	0.0	
	第4地域 (n=44)	40.9	43.2	15.9	0.0	
	第5地域 (n=46)	41.3	52.2	6.5	0.0	
	第6地域 (n=109)	36.7	43.1	18.3	1.8	
	第7地域 (n=135)	43.0	37.0	19.3	0.7	
	第8地域 (n=113)	42.5	47.8	8.8	0.9	
	第9地域 (n=83)	39.8	48.2	12.0	0.0	
	第10地域 (n=63)	30.2	58.7	9.5	1.6	
住居形態別	持ち家の一戸建て (n=304)	60.2	29.3	10.2	0.3	
	持ち家の集合住宅（マンションなど） (n=218)	33.9	43.1	22.5	0.5	
	賃貸の一戸建て (n=18)	38.9	38.9	22.2	0.0	
	賃貸の集合住宅（マンションなど） (n=208)	6.3	80.3	13.5	0.0	
	公営住宅（市営・都営住宅など） (n=46)	65.2	15.2	19.6	0.0	
	社宅・公務員住宅など (n=26)	34.6	42.3	23.1	0.0	
	その他 (n=10)	40.0	50.0	10.0	0.0	

## (4) 自治会に加入していない理由（問10-1）

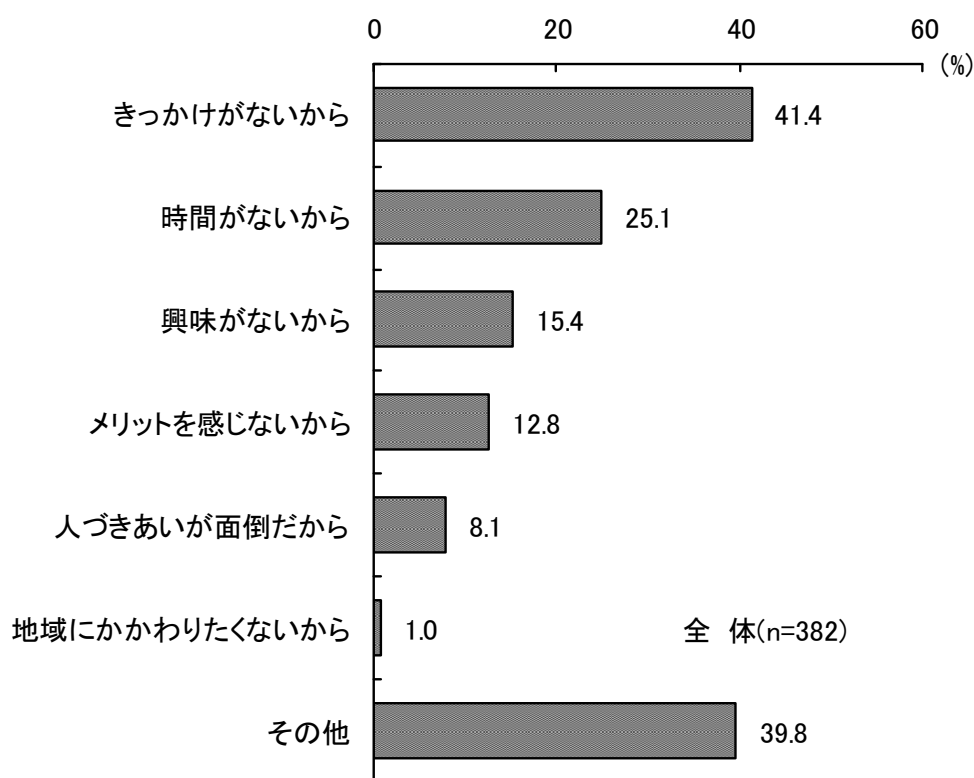
問10-1 問10で「2. 加入していない」と答えた方におたずねします。加入していない理由は何ですか。（いくつでも○）

自治会に加入していない人に、その理由をたずねたところ、「きっかけがないから（41.4%）」が4割を超えており、「時間がないから（25.1%）」、「興味がないから（15.4%）」が続いている。

「その他（39.8%）」には、「自治会がない」が多く、「自治会があるかどうか分からない」、「自治会を知らない」など、自治会の存在の有無に関する回答が目立った。また、地域に自治会はあるが、「加入の仕方が分からない」、「マンション居住のため自治会になじみがない」、「マンション住まいで、マンションの管理組合として自治会に加入していないから」といった回答も寄せられた。

図表1-15 自治会に加入していない理由（全体：複数回答）

<自治会に加入していない人>

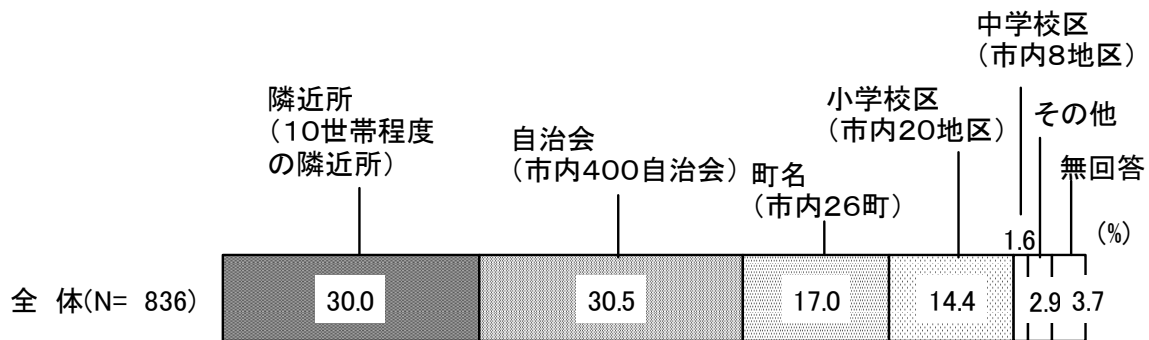


(5) 住民が支えあう「地域」の範囲の考え方（問 11）

問 11 あなたにとって、住民が支えあう「地域」とはどのような範囲だと思いますか。次の中でもっとも近いものをお答えください。（1つに○）

住民が支えあう「地域」とはどのような範囲だと思うかたずねたところ、「自治会（市内 400 自治会）（30.5%）」、「隣近所（10 世帯程度の隣近所）（30.0%）」などとなっている。

図表 1-16 住民が支えあう「地域」の範囲の考え方（全体）



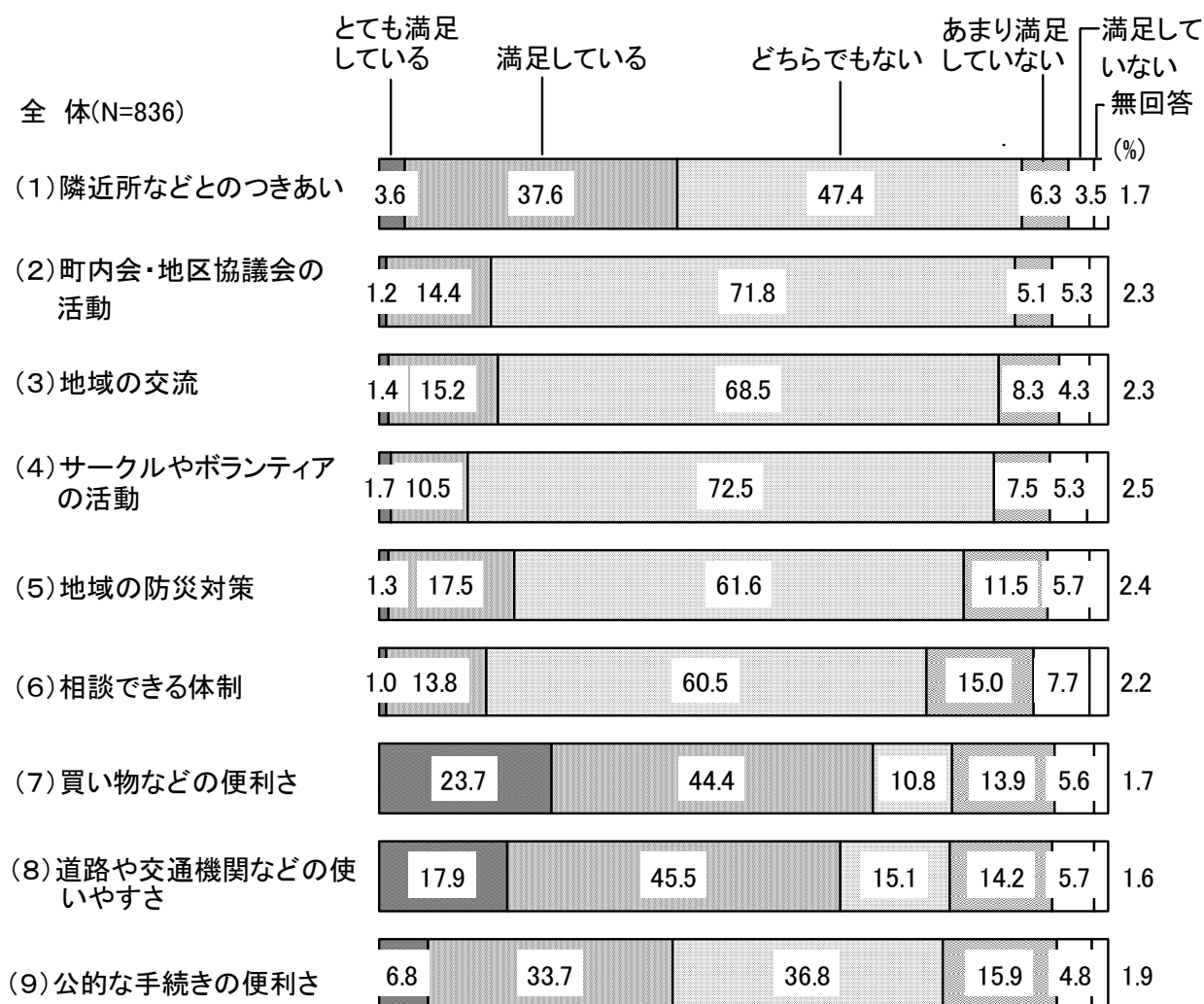
(6) 地域の暮らしの満足度 (問 12)

問 12 あなたは現在、お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのように感じていますか。  
 ((1) ~ (9) までそれぞれ1つに○)

地域の暮らしの満足度について、「とても満足している」と「満足している」を合わせた満足度が高いのは、『買い物などの便利さ』、『道路や交通機関などの使いやすさ』で、それぞれ68.1%、63.4%である。

「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせると、満足度が低いのは、『相談できる体制』で、22.7%である。

図表 1-17 地域の暮らしの満足度 (全体)



## 4 日ごろの悩みと相談

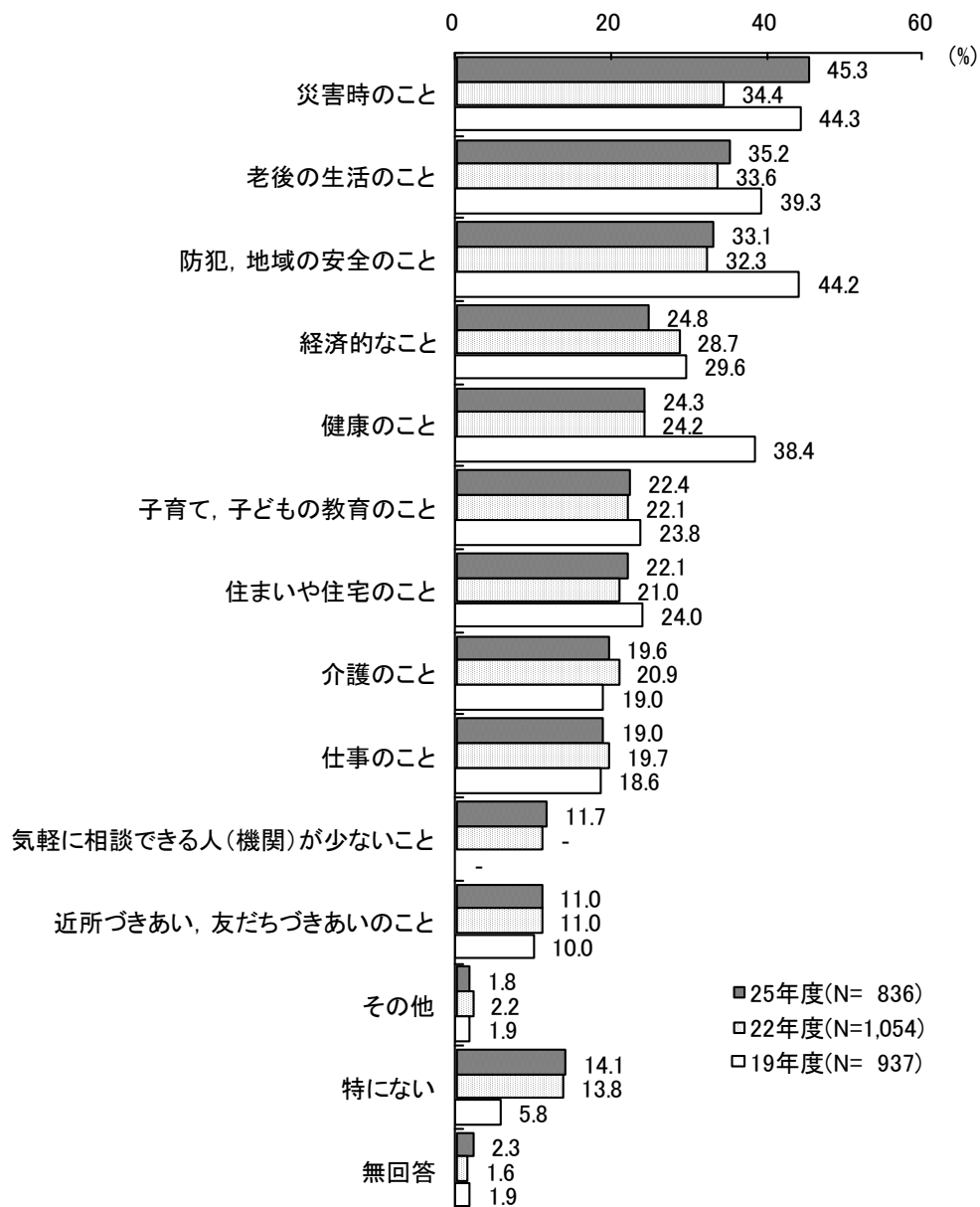
### (1) 身近な地域の中での不安や課題（問 13）

問 13 あなたは、身近な地域の中で不安や課題と感じていることはありますか。（いくつでも○）\*地域は問3でお答えになった地域を目安にお答えください。

身近な地域の中での不安や課題は、「災害時のこと（45.3%）」が最も多く、「老後の生活のこと（35.2%）」、「防犯，地域の安全のこと（33.1%）」が続いている。「特にない」は，14.1%である。

前回調査と比較すると、「災害時のこと」が19年度では44.3%，22年度では34.4%で割合が低くなる傾向があったが，25年度では45.3%と10.9ポイント増加している。

図表 1-18 身近な地域の中での不安や課題（全体：複数回答）【前回比較】



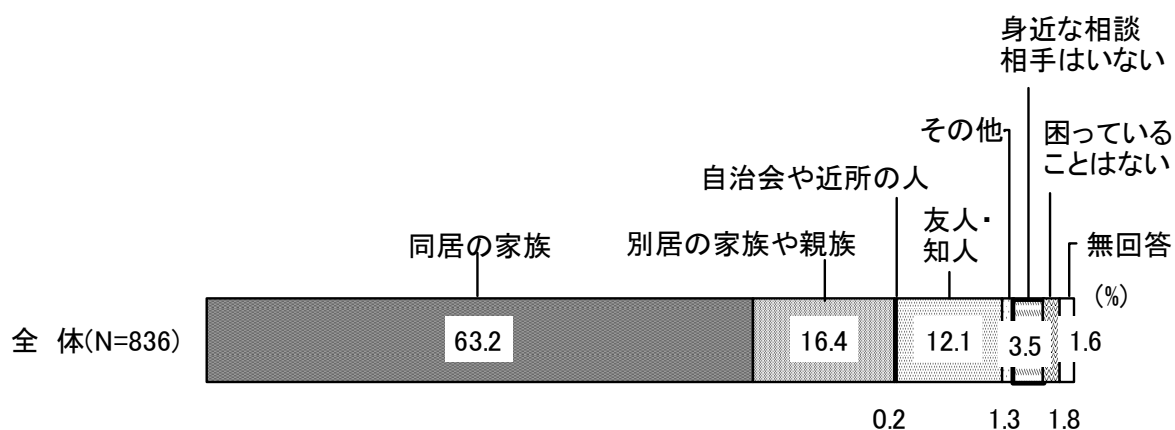


(2) 困ったときの身近な相談相手（問14）

問14 あなたが、日常生活の中で困ったとき、主に相談できる相手は次のうちどなたですか。  
（1つに○）

日常生活の中で困ったとき、主に相談できる相手をたずねたところ、「同居の家族（63.2%）」が最も多く、「別居の家族や親戚（16.4%）」、「友人・知人（12.2%）」が続いている。「身近な相談相手はいない」は、3.5%である。

図表 1-19 困ったときの身近な相談相手（全体）

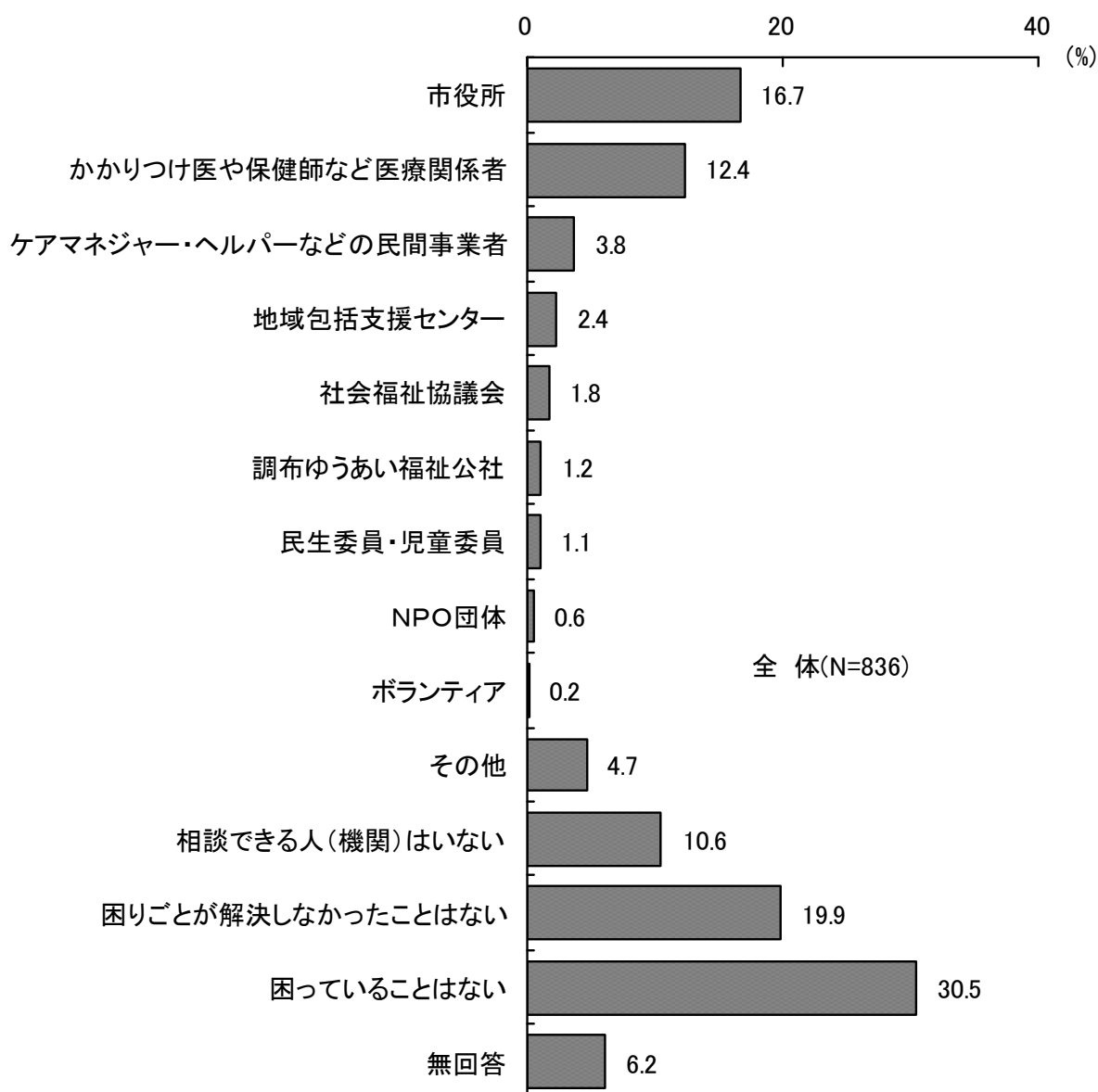


(3) 困りごとが解決しない際に相談する専門機関（問 15）

問 15 あなたは、身近な方に相談しても困りごとが解決しなかったとき、次のようなところに相談したことがありますか。（いくつでも○）

身近な方に相談しても困りごとが解決しなかったときの専門機関の利用経験をたずねたところ、「市役所（16.7%）」が最も多く、「かかりつけ医や保健師など医療関係者（12.4%）」が続いている。「相談できる人（機関）はいない」は、10.6%である。

図表 1-20 困りごとが解決しない際に相談する専門機関（全体：複数回答）

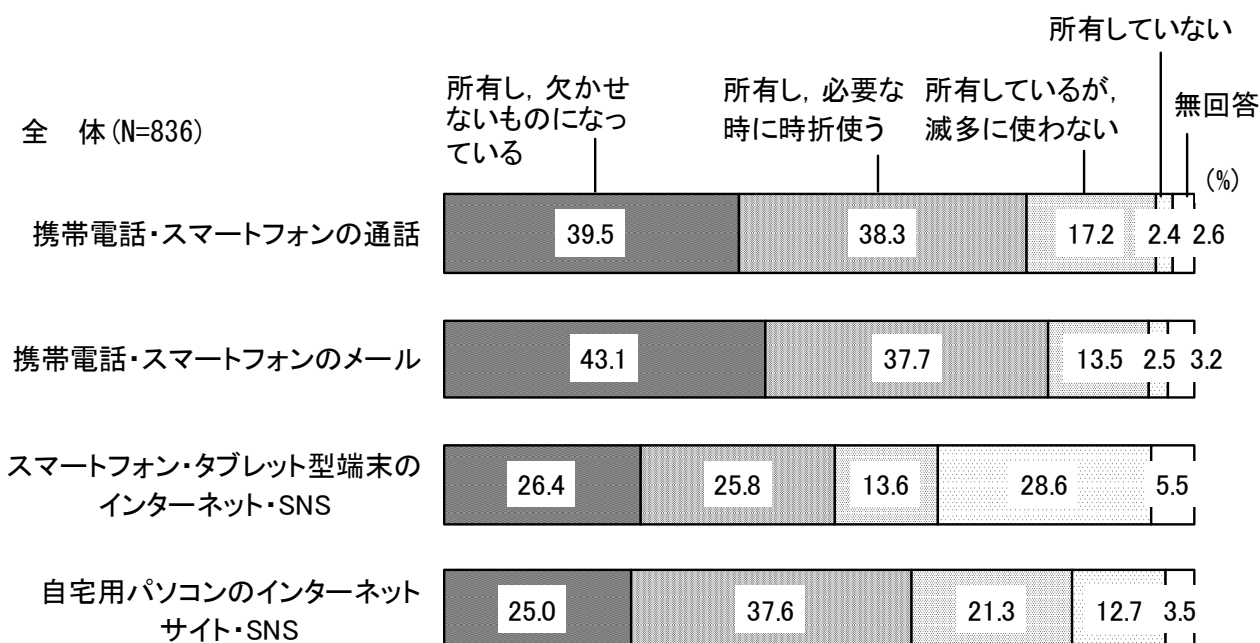


(4) 情報通信機器の利用による相談ごと，困りごとの解決（問16）

問16 あなたは，日常生活の中で相談をしたり，困りごとを解決するための道具として，次のような情報通信機器の機能を活用していますか。（（1）～（4）までそれぞれ1つに○）

情報通信機器の利用による相談ごと，困りごとの解決についてたずねたところ，『携帯電話・スマートフォンのメール』，『携帯電話・スマートフォンの通話』は「所有し，欠かせないものになっている（メール：43.1%，通話：39.5%）」が最も多くなっている。また，『自宅用パソコンのインターネットサイト・SNS』では「所有し，必要な時に時折使う（37.6%）」が最も多い。『スマートフォン・タブレット型端末のインターネットサイト・SNS』は「所有していない（28.6%）」が最も多い。

図表 1-21 情報通信機器の利用による相談ごと，困りごとの解決（全体）



## II アンケート調査の結果

携帯電話・スマートフォンの通話について性・年代別にみると男性・20歳代では「所有し、欠かせないものになっている」の割合が59.1%と他の性・年代に比べ最も高くなっている。

図表 1-22 情報通信機器の利用による相談ごと、困りごとの解決（全体，性・年代別）

(%)

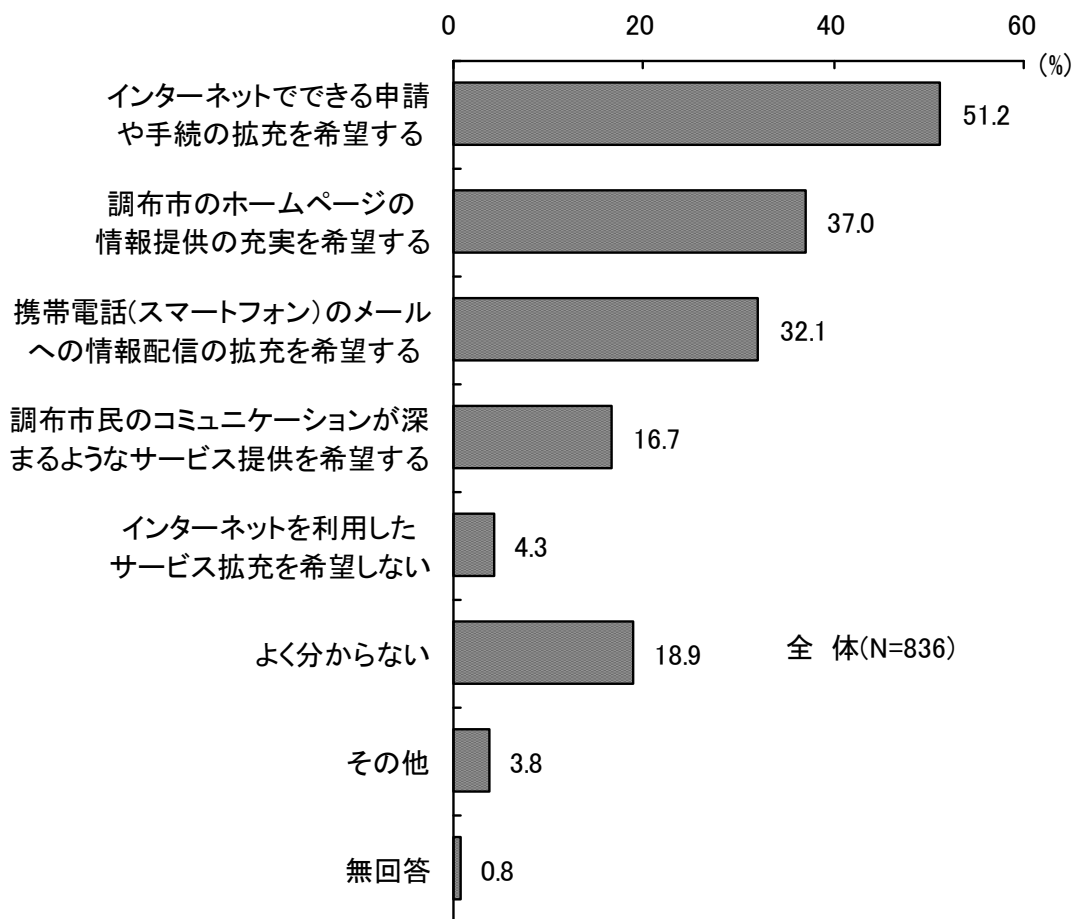
		も所有しな い、つ てか い せ な い	時 折 使 し う 、 必 要 な 時 に	多 所 有 し て い る が 、 減	所 有 し て い な い	無 回 答	
全 体 (N=836)		39.5	38.3	17.2	2.4	2.6	
性・年代別	男性	10歳代 (n=9)	0.0	66.7	22.2	0.0	11.1
		20歳代 (n=44)	59.1	34.1	6.8	0.0	0.0
		30歳代 (n=73)	45.2	39.7	15.1	0.0	0.0
		40歳代 (n=107)	35.5	37.4	21.5	0.9	4.7
		50歳代 (n=75)	37.3	46.7	10.7	2.7	2.7
		60歳代 (n=46)	39.1	30.4	19.6	8.7	2.2
	女性	10歳代 (n=17)	41.2	29.4	29.4	0.0	0.0
		20歳代 (n=56)	50.0	28.6	17.9	3.6	0.0
		30歳代 (n=113)	48.7	35.4	15.0	0.0	0.9
		40歳代 (n=137)	29.9	44.5	19.0	2.2	4.4
		50歳代 (n=94)	40.4	40.4	14.9	3.2	1.1
		60歳代 (n=57)	26.3	33.3	24.6	8.8	7.0

(5) 調布市が提供するインターネットによるサービスについての考え (問17)

問17 現在、調布市ではツイッターや防災の携帯電話メールによる市政情報の提供や施設予約のインターネットサービスを提供しています。あなたは、今後、調布市が提供するインターネットによるサービスについて、どうお考えですか。(いくつでも○)

調布市が提供するインターネットサービスについてたずねたところ、「インターネットでできる申請や手続きの拡充を希望する(51.2%)」が最も多く、「調布市のホームページの情報提供の充実を希望する(37.0%)」、「携帯電話(スマートフォン)のメールへの情報配信の拡充を希望する(32.1%)」が続いている。

図表 1-23 調布市が提供するインターネットによるサービスについての考え (全体：複数回答)



## 5 災害時の不安とできること

### (1) 災害時についての不安や心配ごと（問 18）

問 18 あなたは、災害時についての不安や心配ごとがありますか。（いくつでも○）

災害時の不安や心配ごとについてたずねたところ、「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと（56.1%）」が最も多く、「家具や家電の転倒対策が不十分なこと（30.9%）」、「避難所がはっきり分からないこと（26.7%）」、「老朽化などお住まい（家屋）のこと（26.0%）」が続いている。

居住地域別にみると、第1地域と第8地域で「老朽化などお住まい（家屋）のこと」の割合が「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと」に続き高くなっている。

家族構成別では、ひとり暮らしがその他の家族構成に比べ「避難所がはっきり分からないこと」の回答が13.5ポイント高くなっている。

図表 1-24 災害時についての不安や心配ごと（全体、居住地域別、家族構成別：複数回答）

			が食糧や日用品の備蓄が不十分なこと	家具や家電の転倒対策が不十分なこと	避難所がはっきり分からないこと	（家屋）の老朽化などお住まい	に同居のご家族の歩行不安があること	が自身の歩行に不安	は特にな不安や心配ごと
全	体	(N=836)	56.1	30.9	26.7	26.0	8.7	1.6	10.8
居住地域別	第1地域	(n=33)	63.6	27.3	36.4	36.4	12.1	0.0	9.1
	第2地域	(n=103)	50.5	25.2	22.3	33.0	13.6	1.0	8.7
	第3地域	(n=92)	64.1	37.0	30.4	25.0	6.5	0.0	6.5
	第4地域	(n=44)	47.7	29.5	11.4	22.7	6.8	2.3	18.2
	第5地域	(n=46)	60.9	26.1	26.1	17.4	6.5	0.0	6.5
	第6地域	(n=109)	58.7	28.4	16.5	18.3	9.2	1.8	15.6
	第7地域	(n=135)	50.4	34.8	21.5	23.7	7.4	3.0	13.3
	第8地域	(n=113)	52.2	30.1	34.5	36.3	9.7	1.8	8.0
	第9地域	(n=83)	59.0	31.3	32.5	20.5	2.4	2.4	8.4
	第10地域	(n=63)	63.5	34.9	36.5	27.0	15.9	1.6	11.1
別 構 家 成 族	ひとり暮らし	(n=112)	58.0	25.0	38.4	29.5	0.9	4.5	16.1
	その他	(n=719)	55.6	31.7	24.9	25.5	9.9	1.1	10.0

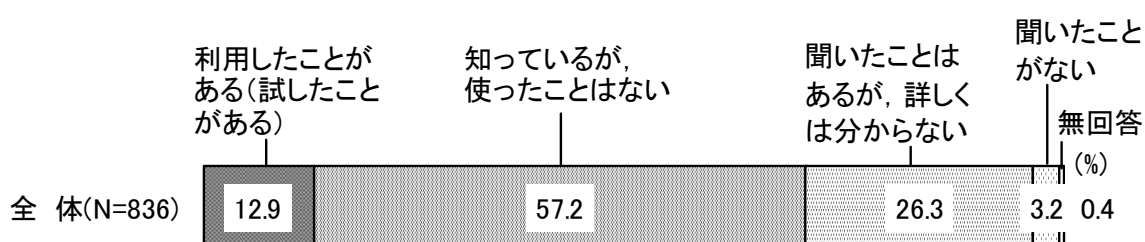
			その他	無回答
全	体	(N=836)	12.7	1.0
居住地域別	第1地域	(n=33)	9.1	0.0
	第2地域	(n=103)	11.7	1.0
	第3地域	(n=92)	13.0	0.0
	第4地域	(n=44)	11.4	2.3
	第5地域	(n=46)	17.4	2.2
	第6地域	(n=109)	12.8	1.8
	第7地域	(n=135)	17.8	0.7
	第8地域	(n=113)	10.6	0.0
	第9地域	(n=83)	14.5	1.2
	第10地域	(n=63)	6.3	1.6
別 構 家 成 族	ひとり暮らし	(n=112)	4.5	0.0
	その他	(n=719)	14.0	1.1

(2) 災害時の安否確認サービスの認知状況（問19）

問19 あなたは、災害時の安否確認ができる災害伝言ダイヤル（NTT）、災害用伝言板サービス（各種携帯電話会社）をご存知ですか。（1つに○）

災害時の安否確認ができる災害伝言ダイヤル、災害用伝言板サービスの認知状況についてたずねたところ、「知っているが、使ったことはない（57.2%）」が最も多く、「聞いたことはあるが、詳しくは分からない（26.3%）」が続いている。

図表 1-25 災害時の安否確認サービスの認知状況（全体）

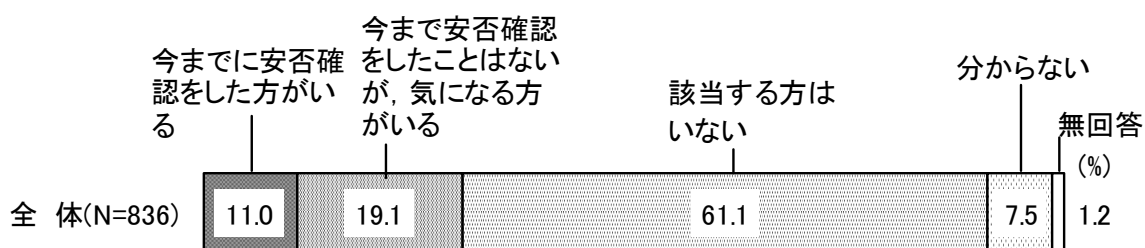


(3) ご近所の安否確認が必要な方の有無（問20）

問20 災害時にあなたが安否確認をする必要がある方（ご家族以外）が、近所にいますか。（1つに○）

近所に安否確認をする必要がある方の有無についてたずねたところ、「今まで安否確認をしたことはないが、気になる方がいる（19.1%）」、「今までに安否確認をした方がいる（11.0%）」となっている。「該当する方はいない（61.1%）」は約6割である。

図表 1-26 ご近所の安否確認が必要な方の有無（全体）



(4) 災害時に地域のためにできること（問 21）

問 21 あなたは、災害時に手助けが必要な地域の方に対してできることはありますか。（いくつでも○）

災害時に手助けが必要な地域の方に対してできることをたずねたところ、「避難所での支援活動（食糧・日用品の運搬等や炊き出しの手伝い）（62.4%）」が最も多く、「ひとり暮らし高齢者や手助けの必要な方への声掛け（42.9%）」、「子どものいる家族への手助け（37.0%）」が続いている。

性・年代別では、男性の10歳代、男性の20歳代、女性の20歳代で「けが人の手当て」が他の年代に比べ高くなっている。また、女性の50歳代、女性の60歳代では「ひとり暮らし高齢者や手助けの必要な方への声掛け」が他の年代に比べ高くなっている。

居住地域別では、第1地域で「避難所での支援活動（食糧・日用品の運搬等や炊き出しの手伝い）」が78.8%と他の居住地域に比べ高くなっている。

図表 1-27 災害時に地域のためにできること  
（全体、性・年代別、居住地域別：複数回答）

		伝搬（避難所での炊き出しの活動）	へやのひとり暮らしの高齢者への声掛け	子どものいる家族への手助け	けが人の手当て	水や食糧の提供	いかにできることはない	その他	無回答	
全 体 (N=836)		62.4	42.9	37.0	15.3	12.3	17.7	4.3	1.6	
年 齢 別	10歳代 (n=26)	53.8	30.8	30.8	23.1	19.2	23.1	3.8	0.0	
	20歳代 (n=100)	63.0	44.0	41.0	32.0	21.0	19.0	6.0	0.0	
	30歳代 (n=187)	61.5	36.9	40.1	16.0	13.4	21.4	2.7	0.5	
	40歳代 (n=244)	65.6	40.2	39.8	11.1	8.6	18.4	3.7	1.2	
	50歳代 (n=170)	64.7	51.8	34.1	13.5	11.8	11.2	6.5	2.9	
	60歳代 (n=103)	54.4	49.5	28.2	8.7	8.7	17.5	3.9	2.9	
性・年代別	男 性	10歳代 (n=9)	44.4	44.4	33.3	44.4	22.2	22.2	0.0	0.0
		20歳代 (n=44)	63.6	40.9	38.6	36.4	27.3	13.6	6.8	0.0
		30歳代 (n=73)	60.3	31.5	30.1	13.7	9.6	21.9	2.7	1.4
		40歳代 (n=107)	62.6	37.4	35.5	6.5	7.5	18.7	3.7	1.9
		50歳代 (n=75)	57.3	41.3	22.7	16.0	13.3	14.7	6.7	5.3
		60歳代 (n=46)	52.2	41.3	21.7	13.0	13.0	19.6	2.2	2.2
	女 性	10歳代 (n=17)	58.8	23.5	29.4	11.8	17.6	23.5	5.9	0.0
		20歳代 (n=56)	62.5	46.4	42.9	28.6	16.1	23.2	5.4	0.0
		30歳代 (n=113)	62.8	40.7	46.9	17.7	15.0	21.2	2.7	0.0
		40歳代 (n=137)	67.9	42.3	43.1	14.6	9.5	18.2	3.6	0.7
		50歳代 (n=94)	70.2	60.6	43.6	11.7	10.6	8.5	6.4	1.1
		60歳代 (n=57)	56.1	56.1	33.3	5.3	5.3	15.8	5.3	3.5
居 住 地 域 別	第1地域 (n=33)	78.8	63.6	54.5	18.2	3.0	9.1	0.0	0.0	
	第2地域 (n=103)	68.0	43.7	37.9	14.6	10.7	20.4	5.8	0.0	
	第3地域 (n=92)	57.6	48.9	42.4	15.2	12.0	16.3	6.5	1.1	
	第4地域 (n=44)	61.4	54.5	47.7	18.2	11.4	11.4	4.5	2.3	
	第5地域 (n=46)	69.6	43.5	37.0	13.0	10.9	10.9	4.3	0.0	
	第6地域 (n=109)	56.9	32.1	25.7	17.4	11.9	20.2	2.8	2.8	
	第7地域 (n=135)	57.8	43.7	45.2	15.6	14.8	20.0	4.4	2.2	
	第8地域 (n=113)	65.5	36.3	31.9	19.5	13.3	16.8	4.4	1.8	
	第9地域 (n=83)	62.7	47.0	36.1	14.5	16.9	18.1	3.6	1.2	
	第10地域 (n=63)	63.5	34.9	25.4	6.3	9.5	19.0	4.8	3.2	



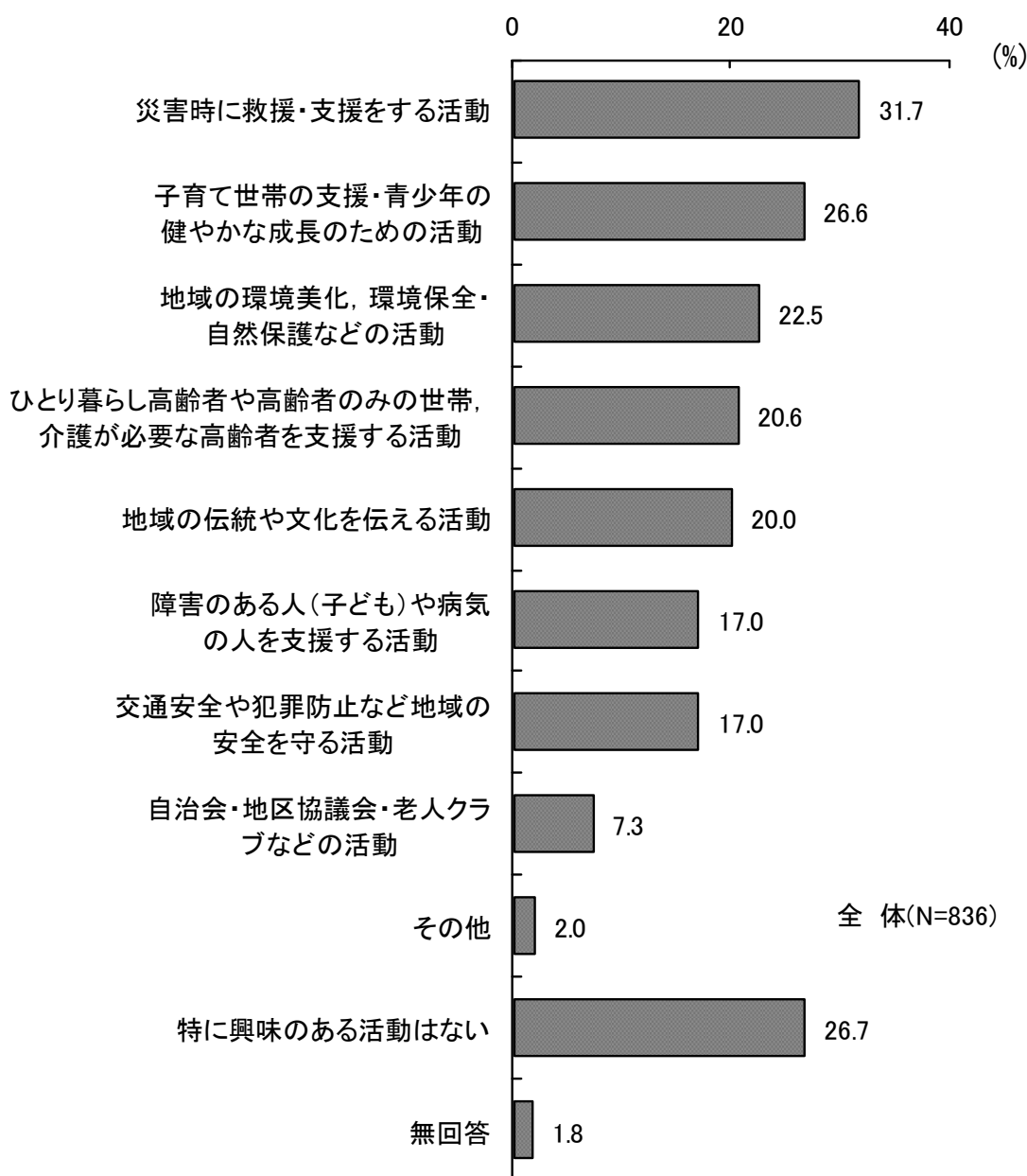
## 6 地域福祉活動等の取組状況

### (1) 興味のある地域活動・ボランティア活動（問22）

問22 次のような地域活動・ボランティア活動等について、あなたが興味のある活動はありますか。（いくつでも○）

興味のある地域活動・ボランティア活動は、「災害時に救援・支援をする活動（31.7%）」が最も多く、「子育て世帯の支援・青少年の健やかな成長のための活動（26.6%）」、「地域の環境美化、環境保全・自然保護などの活動（22.5%）」が続いている。「特に興味のある活動はない」は26.7%であった。

図表 1-28 興味のある地域活動・ボランティア活動（全体：複数回答）



(2) 地域活動・ボランティア活動への取組状況（問 23）

問 23 あなたは、実際に問 22 のような地域活動・ボランティア活動等に取り組んでいますか。（1つに○）

地域活動・ボランティア活動への取組状況は、「現在、継続的に取り組んでいる」が3.6%、「たまに、取り組むことがある」が6.2%、「以前取り組んだことがあるが、現在はほとんどしていない」が16.7%となっている。また、「取り組んだことはない」は72.0%となっている。

性・年代別にみると、女性の50歳代は「現在、継続的に取り組んでいる」が7.4%と他の性・年代に比べ高い割合となっている。

居住地域別では第10地域、第4地域で「現在、継続的に取り組んでいる」との回答の割合が他の地域に比べ高い。

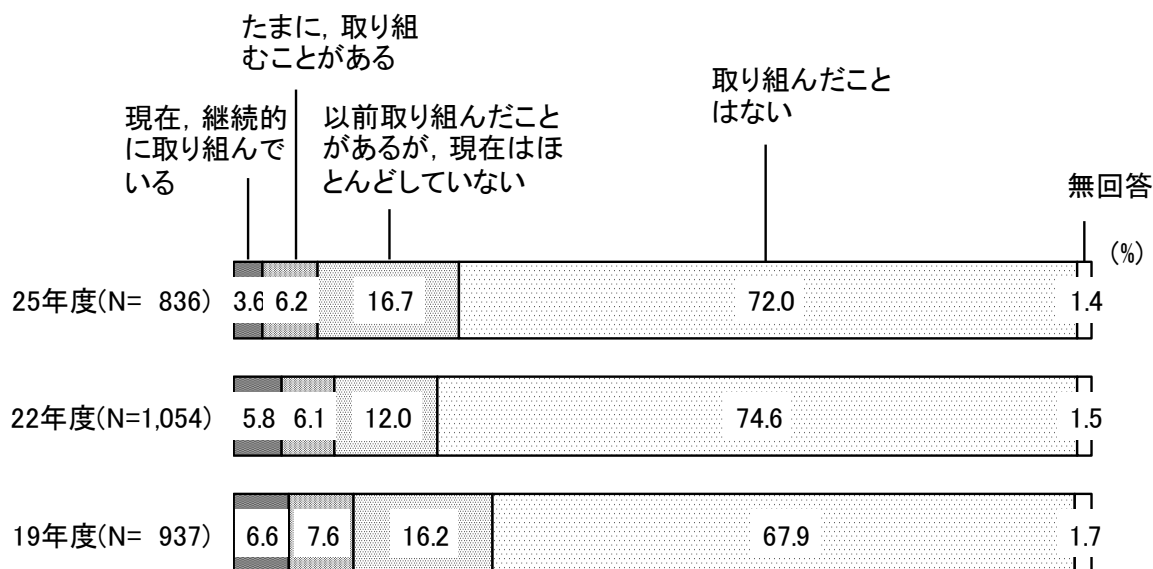
職業別では専業主婦（夫）の「現在、継続的に取り組んでいる（7.2%）」の割合が他の職業より高くなっている。

図表 1-29 地域活動・ボランティア活動への取組状況  
（全体、性・年代別、居住地域別、職業別）

			組 現 在 で 、 い 継 続 的 に 取 り	と た が ま あ に る 、 取 り 組 む こ	と が 以 前 あ ど る 取 り 組 み が り て 、 組 み な い は こ と	い 取 り 組 ん だ こ と は な	無 回 答
全 体		(N=836)	3.6	6.2	16.7	72.0	1.4
性・年代別	男性	10歳代 (n=9)	0.0	11.1	11.1	77.8	0.0
		20歳代 (n=44)	2.3	4.5	20.5	72.7	0.0
		30歳代 (n=73)	1.4	8.2	6.8	82.2	1.4
		40歳代 (n=107)	0.9	8.4	7.5	80.4	2.8
		50歳代 (n=75)	5.3	2.7	16.0	73.3	2.7
		60歳代 (n=46)	4.3	2.2	15.2	76.1	2.2
	女性	10歳代 (n=17)	0.0	5.9	17.6	76.5	0.0
		20歳代 (n=56)	1.8	3.6	28.6	66.1	0.0
		30歳代 (n=113)	2.7	8.0	15.9	73.5	0.0
		40歳代 (n=137)	4.4	7.3	16.8	71.5	0.0
		50歳代 (n=94)	7.4	8.5	23.4	58.5	2.1
		60歳代 (n=57)	7.0	1.8	24.6	63.2	3.5
居住地域別	第1地域 (n=33)	3.0	12.1	3.0	81.8	0.0	
	第2地域 (n=103)	1.0	4.9	18.4	75.7	0.0	
	第3地域 (n=92)	5.4	5.4	16.3	72.8	0.0	
	第4地域 (n=44)	6.8	0.0	27.3	63.6	2.3	
	第5地域 (n=46)	4.3	6.5	26.1	63.0	0.0	
	第6地域 (n=109)	1.8	4.6	19.3	71.6	2.8	
	第7地域 (n=135)	4.4	6.7	16.3	71.1	1.5	
	第8地域 (n=113)	2.7	7.1	15.0	74.3	0.9	
	第9地域 (n=83)	2.4	10.8	6.0	77.1	3.6	
	第10地域 (n=63)	7.9	4.8	20.6	63.5	3.2	
職業別	自営業・自由業 (n=57)	3.5	5.3	24.6	64.9	1.8	
	企業の社員・役員（従業員50人未満） (n=79)	2.5	8.9	10.1	77.2	1.3	
	企業の社員・役員（従業員50人以上） (n=263)	3.0	6.1	13.3	76.8	0.8	
	公務員 (n=55)	1.8	3.6	21.8	70.9	1.8	
	パート・内職などの仕事 (n=111)	4.5	6.3	17.1	71.2	0.9	
	専業主婦（夫） (n=125)	7.2	8.0	16.0	67.2	1.6	
	学生 (n=48)	2.1	6.3	20.8	70.8	0.0	
	無職 (n=48)	2.1	4.2	10.4	77.1	6.3	
	その他 (n=45)	2.2	4.4	33.3	60.0	0.0	

前回調査と比較すると、「取り組んだことはない」が22年度は74.6%に対し、25年度は72.0%で2.6ポイント低くなっている。

図表 1-30 地域活動・ボランティア活動への取組状況  
(全体)【前回比較】



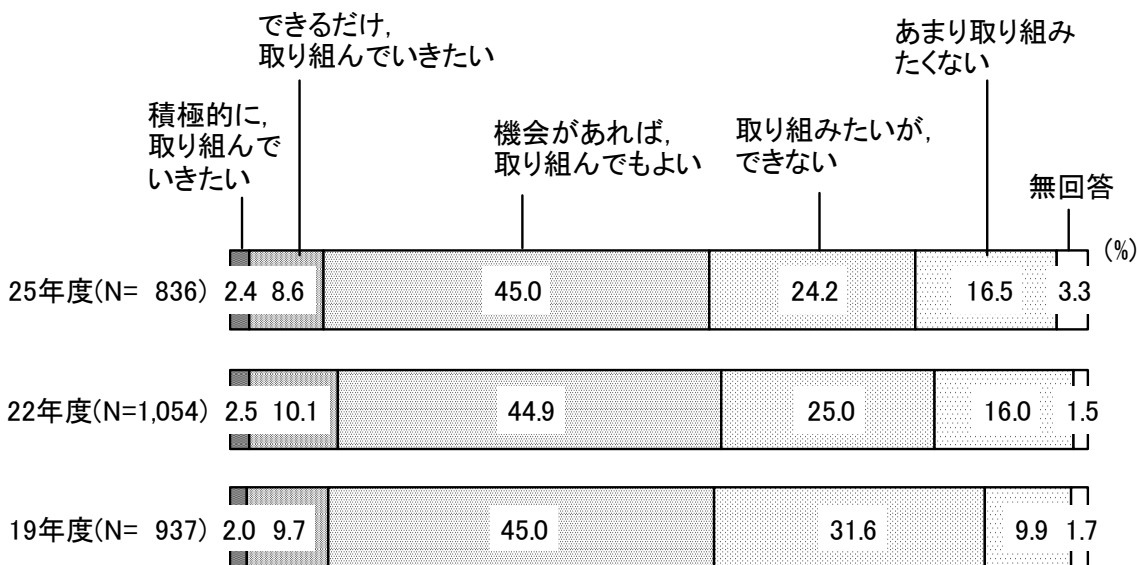
(3) 地域活動・ボランティア活動への取組意向（問 24）

問 24 あなたは、今後、問 22 のような地域活動・ボランティア活動等に取り組んでいきたくて考えていますか。（1つに○）

地域活動・ボランティア活動への取組意向は、「積極的に、取り組んでいきたい（2.4%）」、「できるだけ、取り組んでいきたい（8.6%）」、「機会があれば、取り組んでもよい（45.0%）」を合わせた《取組意向がある》は56.0%となっている。また、「取り組みたいが、できない（24.2%）」、「あまり取り組みたくない（16.5%）」を合わせた《取組意向がない》は、合わせて40.7%となっている。

前回調査と比べると、地域活動・ボランティア活動の取組意向は各回の調査ともほぼ同じ傾向が見られ、「機会があれば、取り組んでもよい」が最も多く、「取り組みたいが、できない」が続いている。

図表 1-31 地域活動・ボランティア活動への取組意向（全体）【前回比較】



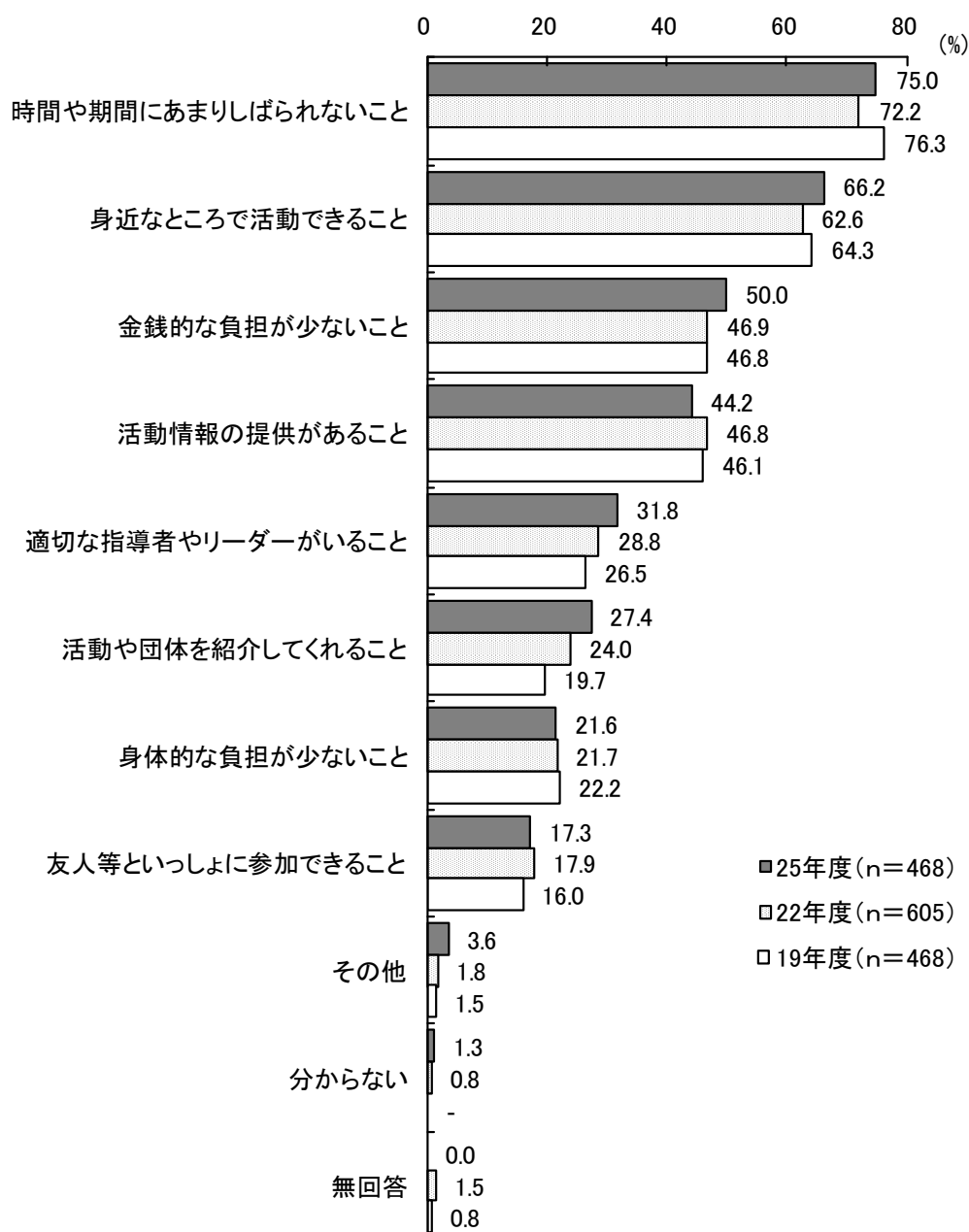
(4) 地域活動・ボランティア活動へ参加・活動しやすい条件（問 24-1）

問 24-1 問 24 で1～3と答えた方におたずねします。どのような条件であれば、参加・活動しやすいと思いますか。（いくつでも○）

《取組意向がある》人に、どのような条件であれば、参加・活動しやすいかたずねたところ、「時間や期間にあまりしぼられないこと（75.0%）」が最も多く、「身近なところで活動できること（66.2%）」、「金銭的な負担が少ないこと（50.0%）」が続いている。

前回調査と比較すると、各調査回ともに「時間や期間にあまりしぼられないこと」が最も多くなっており、いずれも7割を超えている。

図表 1-32 地域活動・ボランティア活動へ参加・活動しやすい条件  
（全体：複数回答）【前回比較】＜《取組意向がある》人＞



(5) 地域活動・ボランティア活動へ取り組まない理由（問 24-2）

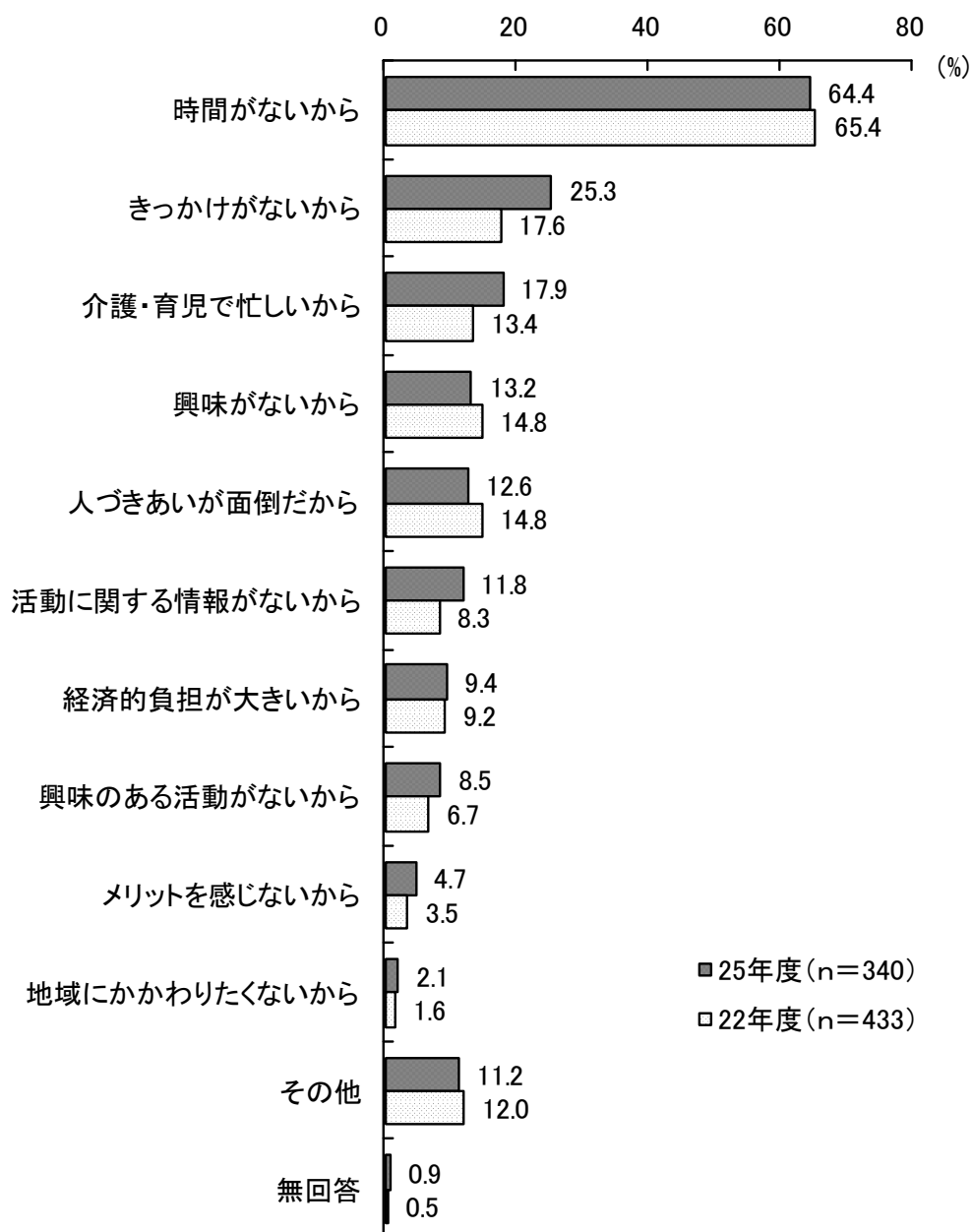
問 24-2 問 24 で 4 または 5 と答えた方におたずねします。地域活動・ボランティア活動等に取り組まない理由は何ですか。（いくつでも○）

《取組意向がない》人に、取り組まない理由をたずねたところ、「時間がないから（64.4%）」が最も多く、「きっかけがないから（25.3%）」、「介護・育児で忙しいから（17.9%）」が続いている。

前回調査と比較すると、22年度、25年度とも「時間がないから」が60%台で最も多く、「きっかけがないから」が続いている。

図表 1-33 地域活動・ボランティア活動へ取り組まない理由

（全体：複数回答）＜《取組意向がない》人＞



## 7 住民参加の地域づくり

### (1) 地域のつながりの必要性（問25）

問25 あなたは暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）は必要だと思いますか。（1つに○）

地域のつながりの必要性は、「どちらかといえば、必要だと思う（58.0%）」、「とても必要だと思う（36.6%）」を合わせた《必要だと思う》は94.6%となっている。「必要ないと思う」は、1.2%であった。

性・年代別にみると、男性の20歳代と女性の60歳代で「とても必要だと思う」の割合が他の性・年代に比べ低くなっている。

居住地域別では第3地域と第5地域で「とても必要だと思う」の割合が3割未満で他地域に比べ低くなっている。

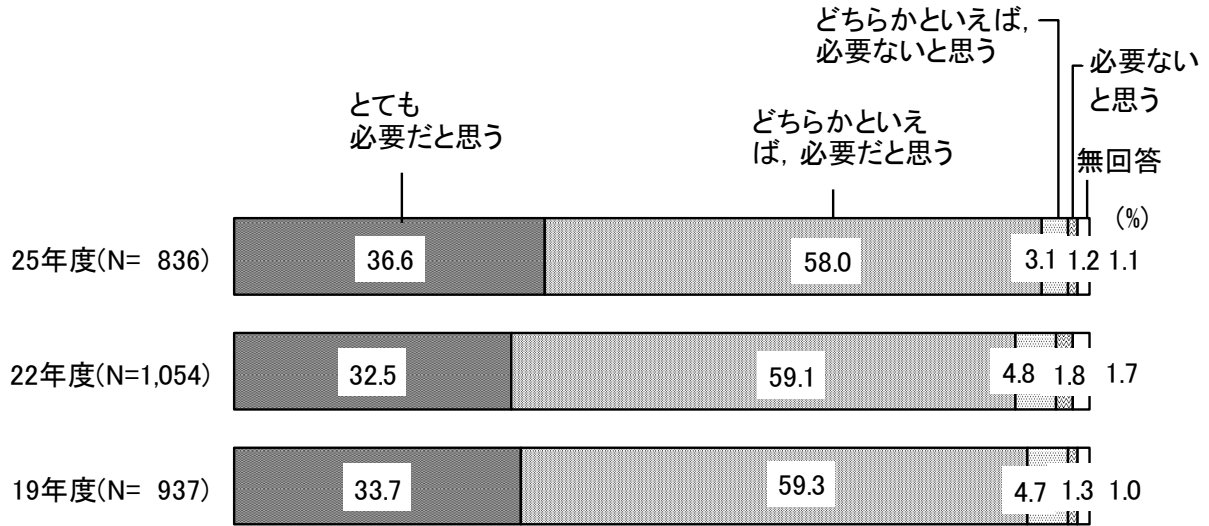
図表 1-34 地域のつながりの必要性（全体、性・年代別、居住地域別）

			とても必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要ないと思う	必要ないと思う	無回答
全体		(N=836)	36.6	58.0	3.1	1.2	1.1
性・年代別	男性	10歳代 (n=9)	55.6	33.3	11.1	0.0	0.0
		20歳代 (n=44)	25.0	70.5	0.0	4.5	0.0
		30歳代 (n=73)	38.4	56.2	2.7	0.0	2.7
		40歳代 (n=107)	35.5	56.1	6.5	0.9	0.9
		50歳代 (n=75)	34.7	61.3	0.0	2.7	1.3
		60歳代 (n=46)	43.5	50.0	2.2	2.2	2.2
	女性	10歳代 (n=17)	23.5	76.5	0.0	0.0	0.0
		20歳代 (n=56)	33.9	58.9	7.1	0.0	0.0
		30歳代 (n=113)	42.5	54.0	3.5	0.0	0.0
		40歳代 (n=137)	35.8	58.4	3.6	0.7	1.5
		50歳代 (n=94)	40.4	56.4	0.0	2.1	1.1
		60歳代 (n=57)	28.1	64.9	3.5	1.8	1.8
居住地域別	第1地域 (n=33)	45.5	48.5	6.1	0.0	0.0	
	第2地域 (n=103)	42.7	52.4	2.9	1.0	1.0	
	第3地域 (n=92)	25.0	68.5	3.3	2.2	1.1	
	第4地域 (n=44)	40.9	47.7	9.1	0.0	2.3	
	第5地域 (n=46)	28.3	67.4	0.0	0.0	4.3	
	第6地域 (n=109)	40.4	56.0	1.8	1.8	0.0	
	第7地域 (n=135)	42.2	52.6	2.2	2.2	0.7	
	第8地域 (n=113)	30.1	61.9	5.3	0.9	1.8	
	第9地域 (n=83)	33.7	62.7	2.4	0.0	1.2	
	第10地域 (n=63)	41.3	55.6	1.6	1.6	0.0	

## II アンケート調査の結果

前回調査と比較すると、各調査回とも「とても必要だと思う」、「どちらかといえば、必要だと思う」の割合に大きな差はない。

図表 1-35 地域のつながりの必要性（全体）【前回比較】





## (2) 地域のつながりを感じる程度（問26）

問26 あなたがお住まいの地域には、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）はあると感じますか。（1つに○）

地域のつながりを感じる程度をたずねたところ、「とても感じる（7.2%）」、「少し感じる（40.1%）」を合わせた《感じる》は47.3%、「あまり感じない（40.0%）」、「感じない（11.8%）」を合わせた《感じない》は51.8%となっている。

性・年代別にみると男性の60歳代で「とても感じる（17.4%）」が他の性・年代より高い割合となっている。また、居住地域別にみると第4地域で「とても感じる」が18.2%となっており、地域によってもつながりを感じる程度に差がある様子が見られる。

近所づきあい別では、親しく近所づきあいをしている人では「とても感じる」が19.7%であるのに対し、近所づきあいをしていない人では「感じない」が34.7%となっている。

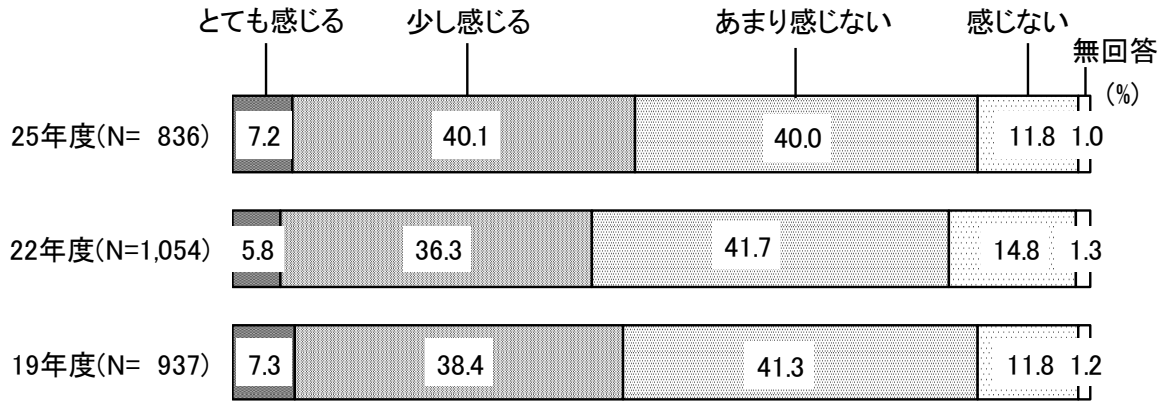
図表1-36 地域のつながりを感じる程度（全体、性・年代別、居住地域別、近所づきあい別）

			とても感じる	少し感じる	あまり感じない	感じない	無回答
全 体 (N=836)			7.2	40.1	40.0	11.8	1.0
性・年代別	男性	10歳代 (n=9)	11.1	66.7	11.1	11.1	0.0
		20歳代 (n=44)	4.5	36.4	43.2	15.9	0.0
		30歳代 (n=73)	8.2	37.0	43.8	9.6	1.4
		40歳代 (n=107)	3.7	47.7	34.6	13.1	0.9
		50歳代 (n=75)	1.3	44.0	36.0	17.3	1.3
		60歳代 (n=46)	17.4	26.1	41.3	13.0	2.2
	女性	10歳代 (n=17)	5.9	47.1	35.3	11.8	0.0
		20歳代 (n=56)	3.6	39.3	50.0	7.1	0.0
		30歳代 (n=113)	10.6	39.8	37.2	11.5	0.9
		40歳代 (n=137)	6.6	48.2	34.3	10.2	0.7
		50歳代 (n=94)	11.7	27.7	48.9	10.6	1.1
		60歳代 (n=57)	5.3	35.1	45.6	12.3	1.8
居住地域別	第1地域 (n=33)	12.1	45.5	33.3	9.1	0.0	
	第2地域 (n=103)	9.7	36.9	37.9	14.6	1.0	
	第3地域 (n=92)	5.4	40.2	38.0	15.2	1.1	
	第4地域 (n=44)	18.2	29.5	38.6	9.1	4.5	
	第5地域 (n=46)	8.7	47.8	37.0	6.5	0.0	
	第6地域 (n=109)	7.3	44.0	37.6	11.0	0.0	
	第7地域 (n=135)	8.9	45.2	37.0	8.1	0.7	
	第8地域 (n=113)	0.9	34.5	46.9	15.9	1.8	
	第9地域 (n=83)	3.6	36.1	45.8	13.3	1.2	
	第10地域 (n=63)	6.3	39.7	42.9	11.1	0.0	
近所づきあい別	親しく近所づきあいをしている (n=71)	19.7	59.2	18.3	1.4	1.4	
	立ち話をする程度のつきあいをしている (n=184)	14.1	52.2	31.0	2.2	0.5	
	あいさつする程度のつきあいをしている (n=433)	4.2	38.6	45.7	10.2	1.4	
	近所づきあいをしていない (n=144)	1.4	19.4	44.4	34.7	0.0	

## Ⅱ アンケート調査の結果

前回調査と比較すると、「とても感じる」は19年度では7.3%，22年度では5.8%となっているが，25年度では7.2%となっている。

図表 1-37 地域のつながりを感じる程度（全体）【前回比較】



(3) 地域住民の協力関係を築くために必要なこと (問 27)

問 27 地域で住民の協力関係を築くためにはどのようなことが必要だと思いますか。(3つまで)

地域住民の協力関係を築くために必要なことをたずねたところ、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること(41.9%)」が最も多く、「地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること(32.8%)」、「町内会・自治会が中心となって交流活動を進めること(22.2%)」が続いている。

居住地域別にみると第1地区で「地域の人々が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること(48.5%)」が「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること」に並び1位にあげられている。

図表 1-38 地域住民の協力関係を築くために必要なこと  
(全体, 居住地域別: 複数回答(3つまで))

		とも住自	る地	点地	め町	こコ	が行	すダ	地地	呼に
		も住自	る地	点地	め町	こコ	が行	すダ	地地	呼に
		つ相進	な域	る場	とな	コ	行地	る域	域活	に地
		う互	情活	とな	つ会	コ	行地	る域	域活	に地
		にの	報動	る場	て・	コ	行地	る域	域活	に地
		心日	をに	を地	交自	コ	行地	る域	域活	に地
		がな	くす	を地	流治	コ	行地	る域	域活	に地
		りか	紹	を地	活会	コ	行地	る域	域活	に地
		こを	介	を地	が中	コ	行地	る域	域活	に地
			具	を地	進心	コ	行地	る域	域活	に地
			す	を地		コ	行地	る域	域活	に地
			体	を地		コ	行地	る域	域活	に地
全	体	(N=836)	41.9	32.8	29.8	22.2	15.7	12.3	9.6	
居住地域別	第1地域	(n=33)	48.5	30.3	48.5	24.2	12.1	6.1	12.1	
	第2地域	(n=103)	45.6	35.9	29.1	25.2	14.6	13.6	9.7	
	第3地域	(n=92)	48.9	37.0	34.8	20.7	15.2	14.1	6.5	
	第4地域	(n=44)	50.0	27.3	18.2	18.2	4.5	9.1	13.6	
	第5地域	(n=46)	45.7	45.7	34.8	13.0	8.7	10.9	2.2	
	第6地域	(n=109)	39.4	30.3	30.3	23.9	11.9	10.1	9.2	
	第7地域	(n=135)	46.7	30.4	29.6	25.2	17.0	9.6	10.4	
	第8地域	(n=113)	33.6	30.1	29.2	19.5	22.1	13.3	10.6	
	第9地域	(n=83)	34.9	33.7	31.3	27.7	21.7	15.7	7.2	
	第10地域	(n=63)	36.5	31.7	17.5	20.6	19.0	15.9	14.3	

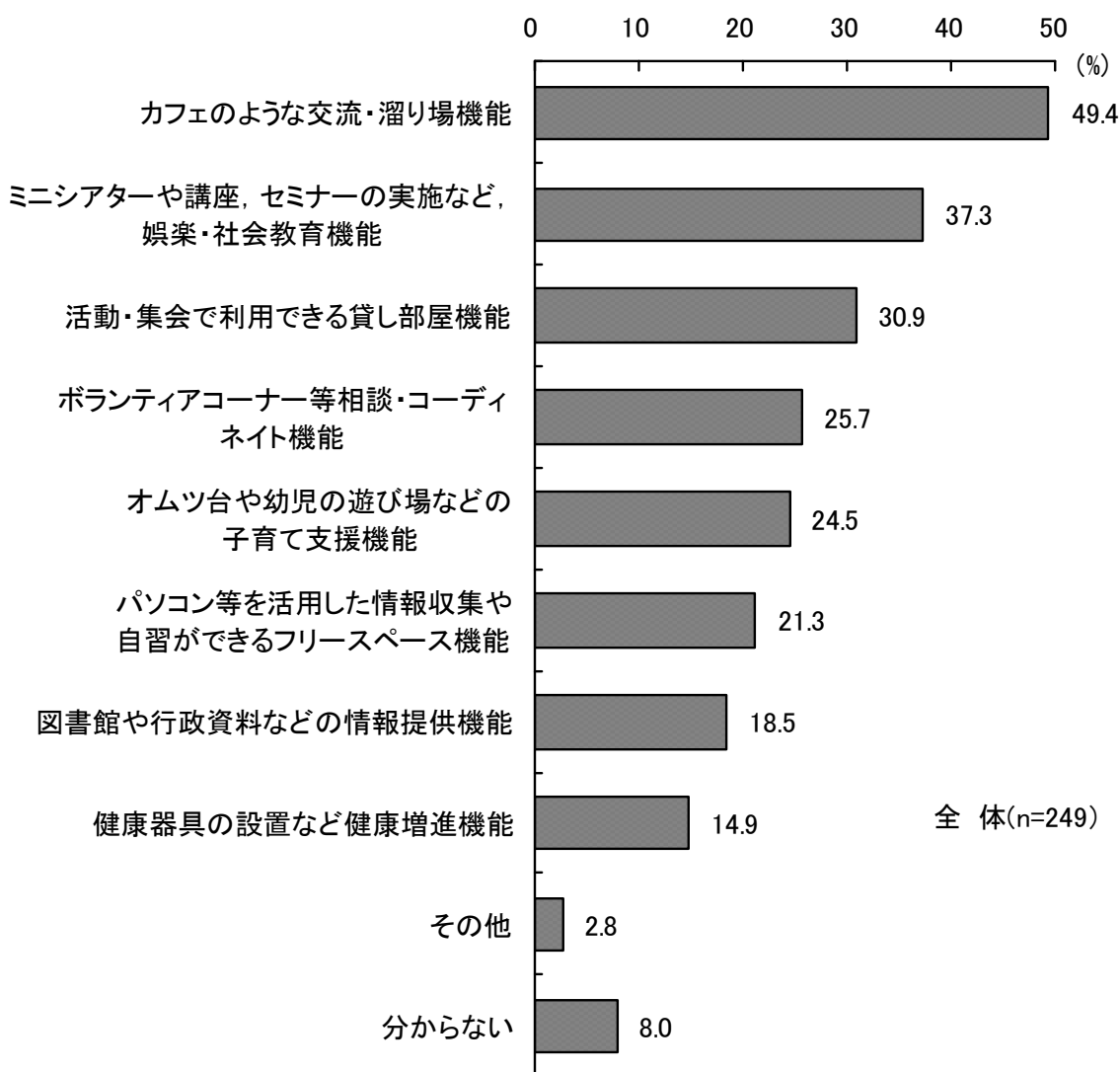
		る織Pボ	そ	分	無	
		こ)Oラン	他	から	回	
		の(ンテ		ない	答	
		活動間イ				
		を非ア				
		活営団				
		発利体				
		に組や				
		す N				
全	体	(N=836)	7.8	2.0	14.2	1.7
居住地域別	第1地域	(n=33)	6.1	6.1	9.1	0.0
	第2地域	(n=103)	3.9	2.9	8.7	1.9
	第3地域	(n=92)	3.3	1.1	10.9	2.2
	第4地域	(n=44)	6.8	0.0	18.2	2.3
	第5地域	(n=46)	6.5	4.3	17.4	2.2
	第6地域	(n=109)	10.1	0.9	14.7	0.0
	第7地域	(n=135)	7.4	1.5	13.3	1.5
	第8地域	(n=113)	11.5	0.9	20.4	0.9
	第9地域	(n=83)	8.4	3.6	12.0	4.8
	第10地域	(n=63)	12.7	3.2	15.9	0.0

(4) 地域福祉センターに求められる機能（問 27-1）

問 27-1 問 27 で 4 と答えた方におたずねします。地域活動や住民同士の交流の拠点として地域福祉センターが市内に 10 箇所設置されていますが、どのような機能が必要だと思いますか。（3 つまで○）

地域住民の協力関係を築くために必要なことについて「地域の人々が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場所を作ること」と回答した人に地域福祉センターに求められる機能についてたずねたところ、「カフェのような交流・溜り場機能（49.4%）」が最も多く、「ミニシアターや講座、セミナーの実施など、娯楽・社会教育機能（37.3%）」、「活動・集会で利用できる貸し部屋機能（30.9%）」が続いている。

図表 1-39 地域福祉センターに求められる機能（全体：複数回答（3 つまで）  
 <地域住民の協力関係を築くために地域活動の拠点となる場所が必要と回答した人>

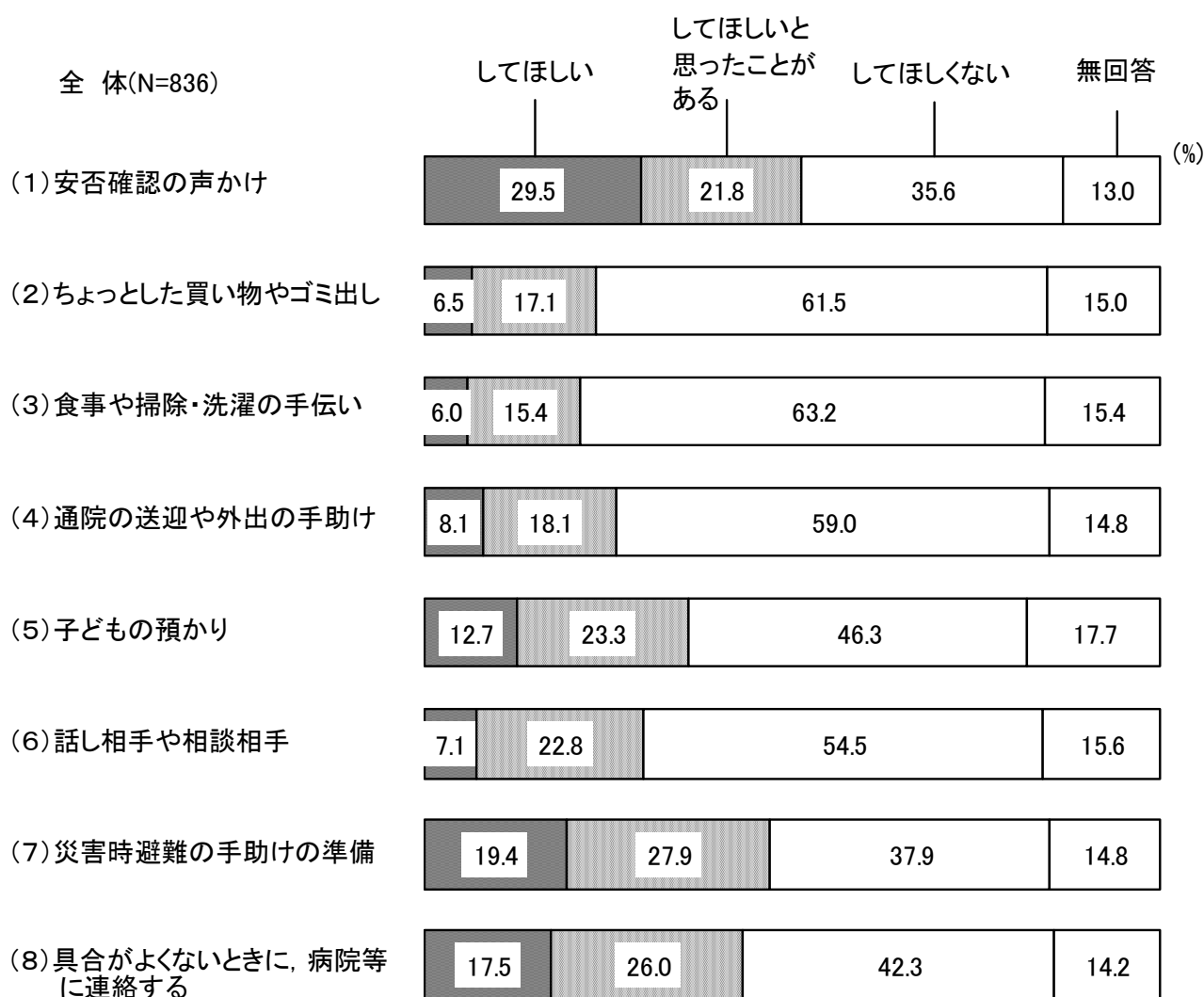


(5) 手助けへの意向 (問 28①)

問 28 ①あなたは次のような手助けをしてほしいと思いますか。【手助けへの意向】

手助けへの意向では、いずれの項目も「してほしくない」が最も多いが、『安否確認の声かけ』については「してほしい」が29.5%であり、他の項目に比べると手助けへの意向が高い。

図表 1-40 手助けへの意向 (全体)

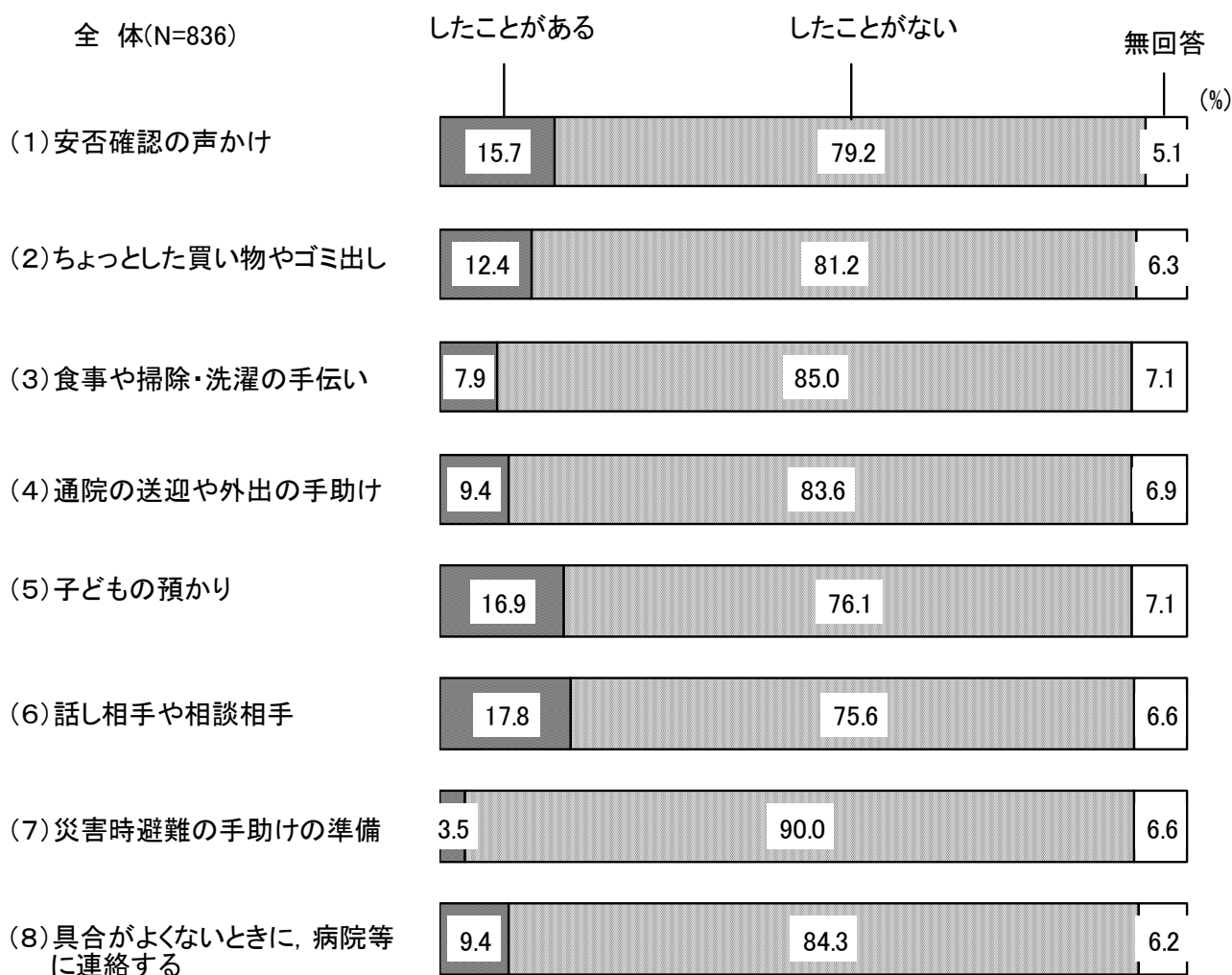


(6) 地域で困っている人への手助けの経験 (問 28②)

問 28 ②また、高齢者や障害のある方、子育てなどで困っている近所のご家庭などに対して、あなたは次のような手助けをしたことがありますか。【手助けの経験】

手助けの経験では、いずれの項目も「したことがない」が最も多い。  
『話し相手や相談相手』、『子どもの預かり』については「したことがある」が17.8%、16.9%であり、他の項目に比べると手助けした経験が多い。

図表 1-41 地域で困っている人への手助けの経験 (全体)

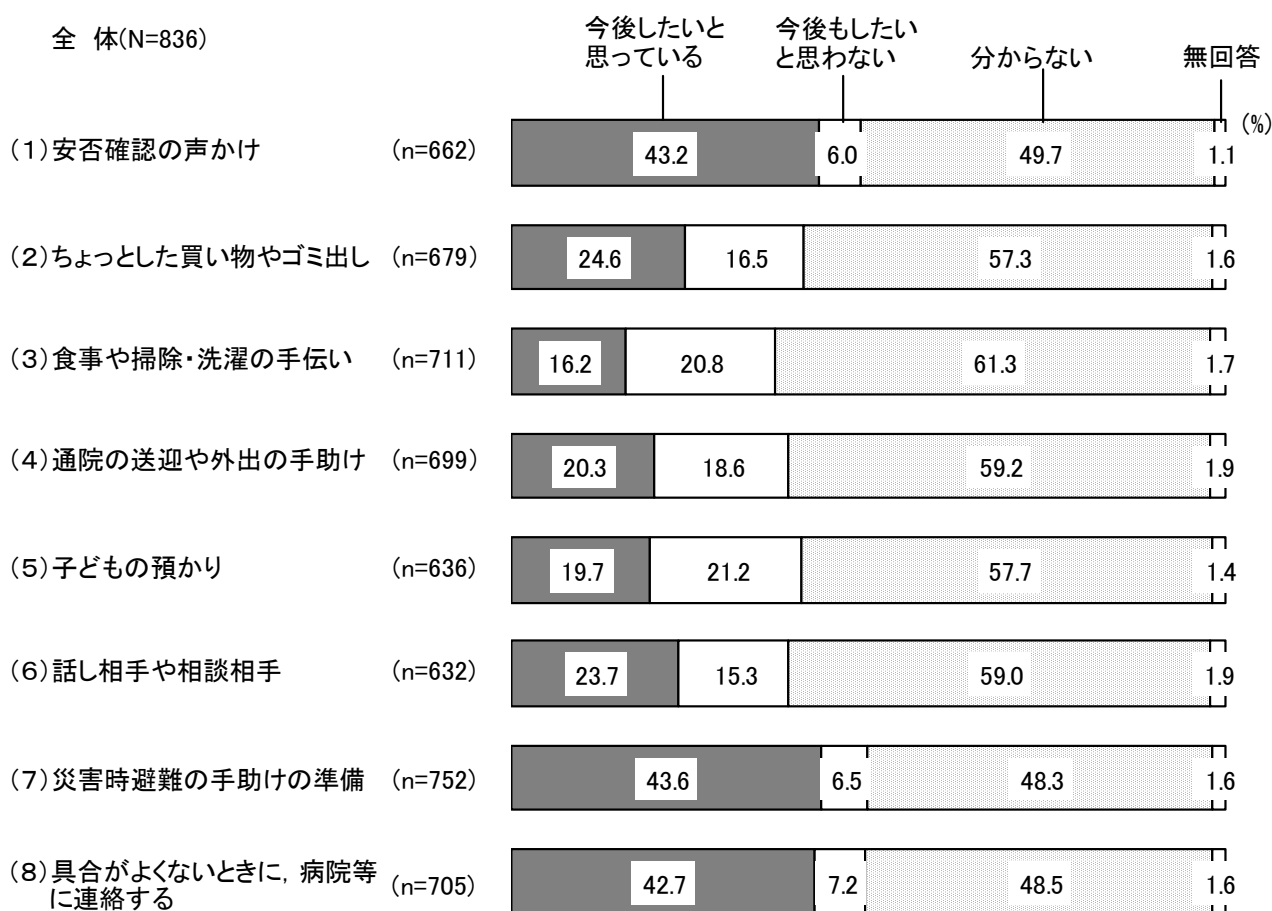


(7) 手助けへの今後の意向 (問 28③)

問 28 ③また、手助けをしたことがない場合は、今後したいと思いますか。【今後の意向】

手助けの経験で「したことがない」と回答した人に、それぞれの項目について、今後の手助けの意向をたずねた。『災害時避難の手助けの準備』、『安否確認の声かけ』、『具合がよくないときに、病院等に連絡する』で、「今後したいと思っている」がそれぞれ 43.6%、43.2%、42.7%となっている。

図表 1-42 手助けへの今後の意向 (全体)  
 <それぞれの項目について手助けの経験がない人>

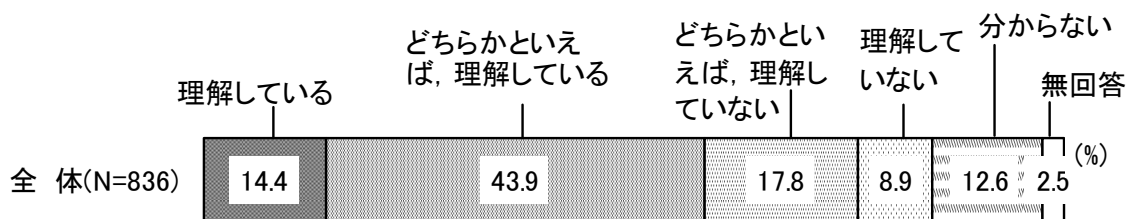


(8) 市民全体が互いの人格と個性を尊重し合う地域社会の実現についての理解  
(問 29)

問 29 調布市では、人々が高齢者や障害者への理解を深め、市民全体が互いの人格と個性を尊重しあう地域社会の実現を目指しています。このような「市民全体が互いの人格と個性を尊重しあう」という考え方について、あなた自身は理解していると思いますか。  
(1つに○)

「市民全体が互いの人格と個性を尊重しあう」という考え方への理解についてたずねたところ、「理解している (14.4%)」と「どちらかといえば理解している (43.9%)」を合わせた《理解している》は58.3%となっている。

図表 1-43 市民全体が互いの人格と個性を尊重し合う地域社会の実現についての理解 (全体)





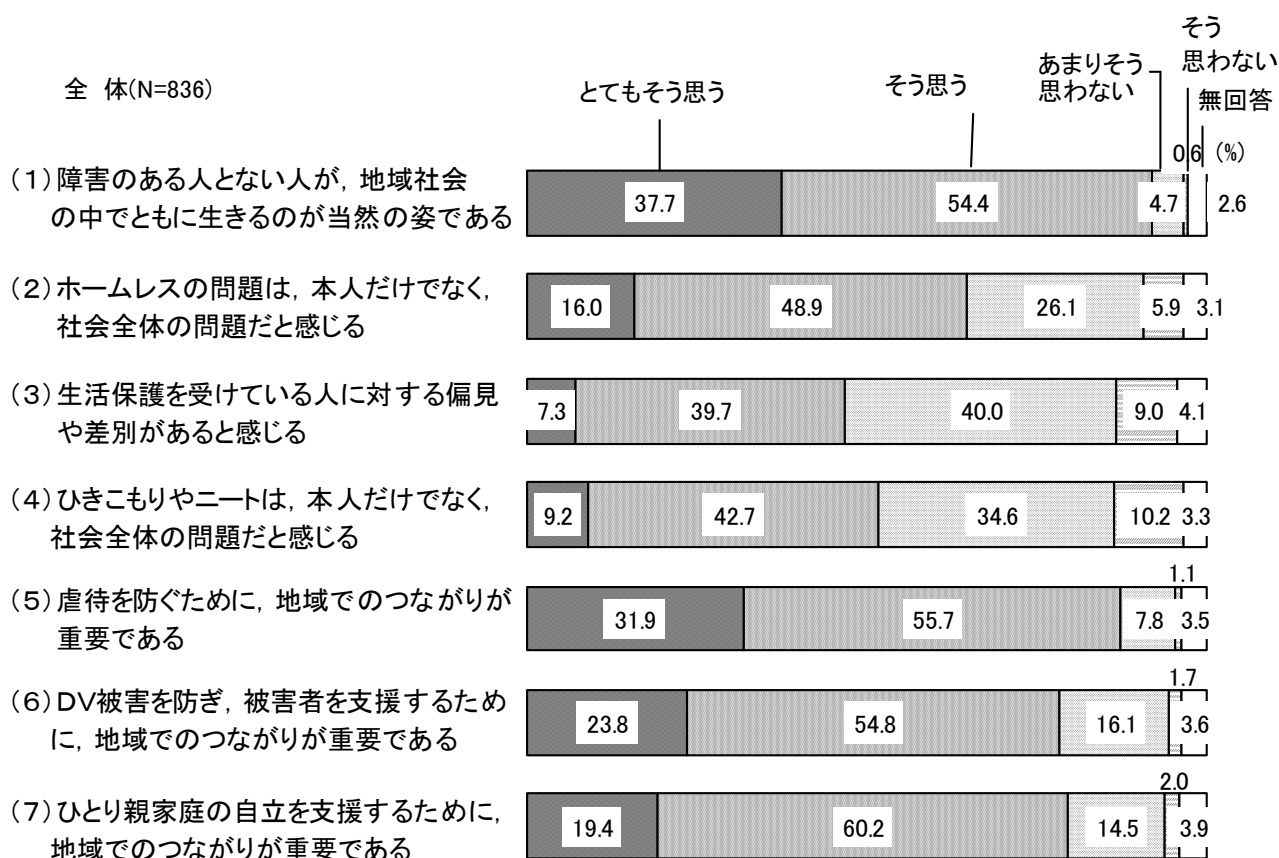
## 8 地域福祉に関する考えと理解

### (1) ソーシャル・インクルージョンに関する意識（問30）

問30 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。（（1）～（7）までそれぞれ1つに○）

ソーシャル・インクルージョンに関する意識についてたずねた。「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた《そう思う》は、『障害のある人とない人が、地域社会の中でともに生きるのが当然の姿である』、『虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である』ではそれぞれ92.1%、87.6%と高くなっている。一方、『生活保護を受けている人に対する偏見や差別があると感じる』、『ひきこもりやニートは、本人だけでなく、社会全体の問題だと感じる』では、《そう思う》はそれぞれ47.0%、51.9%と低くなっている。

図表 1-44 ソーシャル・インクルージョンに関する意識（全体）

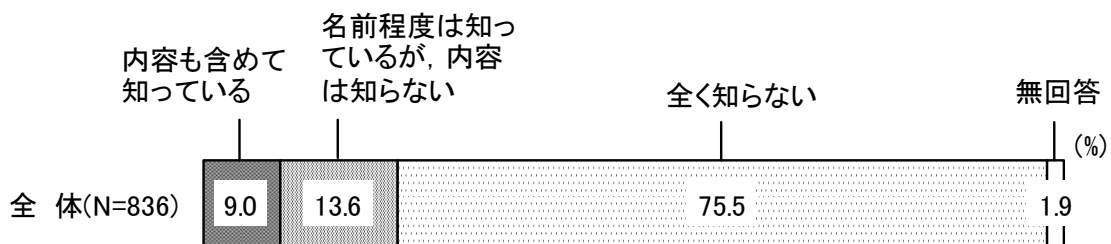


(2) ヘルプカードの認知状況（問 31）

問 31 あなたは、調布市が障害のある人に配布していて、災害時や日常生活の中で困ったときのその人の緊急連絡先や必要な支援内容などが記載されている「ヘルプカード」について知っていますか。（1つに○）

ヘルプカードの認知状況についてたずねたところ、「内容も含めて知っている」は9.0%であるのに対し、「名前程度は知っているが、内容は知らない（13.6%）」と「全く知らない（75.5%）」を合わせた《知らない》は89.1%となっている。

図表 1-45 ヘルプカードの認知状況（全体）



(3) 障害者虐待防止法の認知状況，通報窓口としての障害者虐待防止センターの認知状況（問 32，問 32-1）

問 32 あなたは，平成 24 年 10 月から「障害者虐待防止法」が施行されたことを，知っていましたか。（1つに○）

障害者虐待防止法の施行についてたずねたところ，「知っていた（13.9%）」，「知らなかった（83.4%）」となっている。

図表 1-46 障害者虐待防止法の認知状況（全体）



問 32-1 「1. 知っていた」と答えた方にお聞きします。調布市では障害福祉課が「障害者虐待防止センター」として，障害者虐待の通報窓口となっていることを知っていましたか。（1つに○）

障害者虐待防止法を「知っていた」と回答した人に，障害福祉課が障害者虐待防止センターとして障害者虐待の通報窓口となっていることを知っているかたずねたところ，「知っていた（19.8%）」，「知らなかった（80.2%）」となっている。

図表 1-47 通報窓口としての障害者虐待防止センターの認知状況（全体）  
 <障害者虐待防止法を知っていた人>



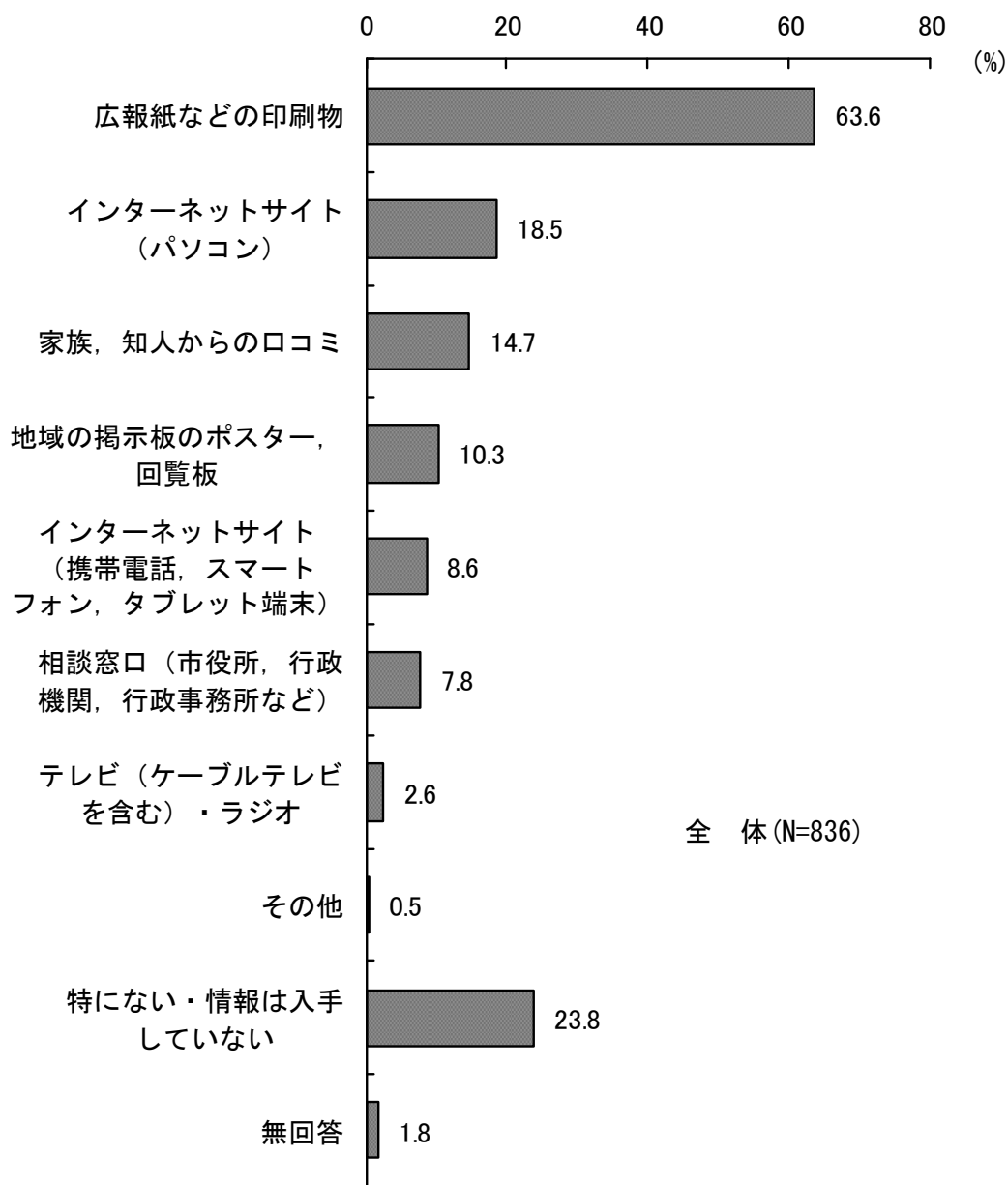
## 9 調布市の保健福祉施策

### (1) 保健福祉施策（サービス）に関する情報入手の媒体（問 33）

問 33 あなたは、調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報を、どこから入手していますか。（いくつでも○）

保健福祉施策（サービス）に関する情報入手の媒体をたずねたところ、「広報紙などの印刷物（63.6%）」が最も多く、「インターネットサイト（パソコン）（18.5%）」、「家族、知人からの口コミ（14.7%）」が続いている。「特にない・情報は入手していない」は、23.8%であった。

図表 1-48 保健福祉施策（サービス）に関する情報入手の方法（全体：複数回答）

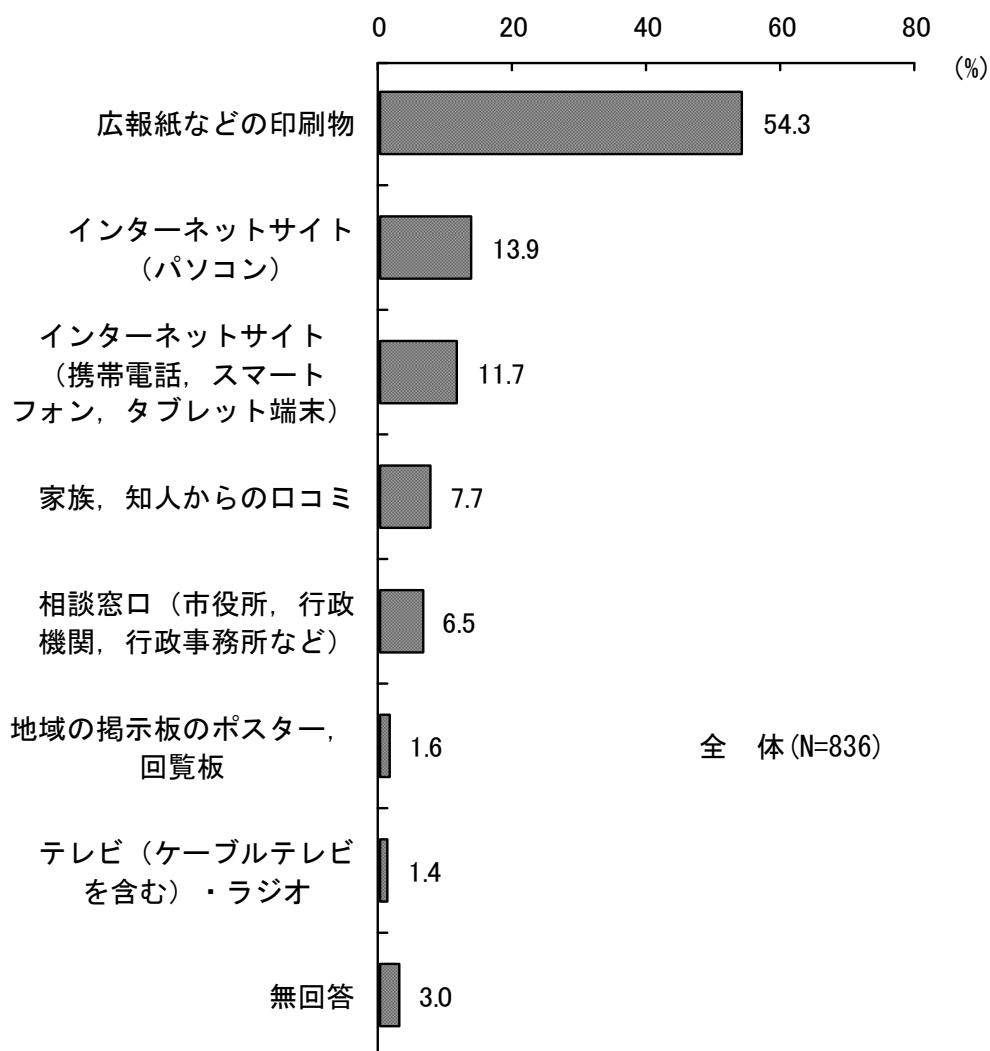


(2) 今後最も活用したい、保健福祉施策（サービス）に関する情報入手の媒体（問 34）

問 34 あなたが、調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報として、今後最も活用したいのは次のうちどれですか。（1つに○）

今後最も活用したい、保健福祉施策（サービス）に関する情報入手の媒体をたずねたところ、「広報紙などの印刷物（54.3%）」が最も多く、「インターネットサイト（パソコン）（13.9%）」、「インターネットサイト（携帯電話、スマートフォン、タブレット端末）（11.7%）」が続いている。

図表 1-49 今後最も活用したい、保健福祉施策（サービス）に関する情報入手の媒体  
（全体：複数回答）



II アンケート調査の結果

(3) 参加を希望する健康づくり事業（問 35（1））

問 35 調布市では、健康管理や介護予防のためにさまざまな健康づくり事業を行っています。  
 どのような健康づくり事業に参加したいですか。  
 (1) あなたは将来に向けて、どのような種類の健康づくり事業に参加してみたいですか。  
 (いくつでも○)

参加を希望する健康づくり事業の種類は、「運動・スポーツ活動（53.9%）」が最も多く、「交流(趣味,レクリエーション)（34.8%)」,「筋力トレーニング(32.4%)」が続いている。

性・年代別にみると、男性は年代が上がるにつれ「認知症の予防,ケア」が高くなっている。女性は、年代が上がるにつれ「筋力トレーニング」や「骨折予防などの寝たきり予防生活機能の維持・向上」の割合が高くなっている。

図表 1-50 参加を希望する健康づくり事業（全体, 性・年代別：複数回答）

		運動・スポーツ活動	交流(趣味,レクリエーションなど)	筋力トレーニング	生活習慣病の予防	認知症の予防・ケア	栄養や食事の指導	歯科・口腔ケア	
全体 (N=836)		53.9	34.8	32.4	28.0	21.4	20.9	17.1	
性・年代別	男性	10歳代 (n=9)	44.4	11.1	55.6	22.2	0.0	22.2	11.1
		20歳代 (n=44)	59.1	25.0	31.8	11.4	2.3	20.5	13.6
		30歳代 (n=73)	57.5	28.8	34.2	28.8	6.8	21.9	21.9
		40歳代 (n=107)	52.3	34.6	26.2	26.2	10.3	11.2	12.1
		50歳代 (n=75)	58.7	37.3	28.0	33.3	18.7	14.7	14.7
		60歳代 (n=46)	39.1	30.4	17.4	32.6	32.6	15.2	8.7
	女性	10歳代 (n=17)	52.9	35.3	29.4	29.4	23.5	47.1	17.6
		20歳代 (n=56)	62.5	42.9	23.2	23.2	16.1	37.5	17.9
		30歳代 (n=113)	61.1	38.1	30.1	22.1	23.9	31.0	21.2
		40歳代 (n=137)	56.9	39.4	40.1	31.4	27.0	19.0	17.5
		50歳代 (n=94)	47.9	36.2	39.4	34.0	37.2	16.0	21.3
		60歳代 (n=57)	38.6	28.1	42.1	29.8	33.3	17.5	15.8

		寝たきり予防生活機能の向上	その他	特にない	無回答	
全体 (N=836)		13.0	0.4	16.1	1.9	
性・年代別	男性	10歳代 (n=9)	11.1	0.0	22.2	0.0
		20歳代 (n=44)	0.0	0.0	25.0	2.3
		30歳代 (n=73)	5.5	0.0	20.5	0.0
		40歳代 (n=107)	10.3	0.0	18.7	0.0
		50歳代 (n=75)	12.0	0.0	16.0	0.0
		60歳代 (n=46)	10.9	2.2	17.4	8.7
	女性	10歳代 (n=17)	11.8	0.0	29.4	0.0
		20歳代 (n=56)	8.9	0.0	14.3	1.8
		30歳代 (n=113)	7.1	0.9	15.9	1.8
		40歳代 (n=137)	12.4	0.7	10.9	0.7
		50歳代 (n=94)	27.7	0.0	13.8	2.1
		60歳代 (n=57)	31.6	0.0	14.0	8.8

(4) 参加を希望する健康づくり事業の形式 (問 35 (2))

(2) どのような形式の健康づくり事業に参加してみたいですか。(1つに○)

参加を希望する健康づくり事業の形式は、「講演会などの話を聞く形式と実際に体を動かす実践形式を組み合わせた形式の事業」が 35.0%、「実際に体を動かす実践形式の事業」が 33.4%などとなっている。

性・年代別にみると、女性の 50 歳代では「講演会などの話を聞く形式と実際に体を動かす実践形式を組み合わせた形式の事業 (57.4%)」と「実際に体を動かす実践形式の事業 (19.1%)」とは 20 ポイント以上の差があるが、女性の 60 歳代では「講演会などの話を聞く形式と実際に体を動かす実践形式を組み合わせた形式の事業 (36.8%)」と「実際に体を動かす実践形式の事業 (33.3%)」とはその差が 3.2 ポイントとなっている。また、40 歳代以降では「特にない」と回答する男性が同年代の女性を上回り、最も差が開いている 50 歳代では、男性は「特にない」が 25.3% であり、女性 (13.8%) を 11.5 ポイント上回っている。

図表 1-51 参加を希望する健康づくり事業の形式 (全体, 性・年代別)

			事業形式と講演会を組み合わせた形式の事業	実際に体を動かす実践形式の事業	講演会などの話を聞く形式	その他	特にない	無回答
全体		(N=836)	35.0	33.4	7.5	0.5	20.8	2.8
性・年代別	男性	10歳代 (n=9)	11.1	33.3	11.1	0.0	33.3	11.1
		20歳代 (n=44)	22.7	40.9	4.5	2.3	27.3	2.3
		30歳代 (n=73)	23.3	38.4	11.0	0.0	26.0	1.4
		40歳代 (n=107)	32.7	33.6	7.5	0.0	24.3	1.9
		50歳代 (n=75)	33.3	33.3	6.7	0.0	25.3	1.3
		60歳代 (n=46)	30.4	23.9	17.4	0.0	19.6	8.7
	女性	10歳代 (n=17)	23.5	29.4	0.0	0.0	47.1	0.0
		20歳代 (n=56)	25.0	44.6	10.7	0.0	17.9	1.8
		30歳代 (n=113)	38.9	33.6	4.4	0.0	21.2	1.8
		40歳代 (n=137)	38.0	36.5	8.0	0.0	16.1	1.5
		50歳代 (n=94)	57.4	19.1	4.3	3.2	13.8	2.1
		60歳代 (n=57)	36.8	33.3	7.0	0.0	14.0	8.8

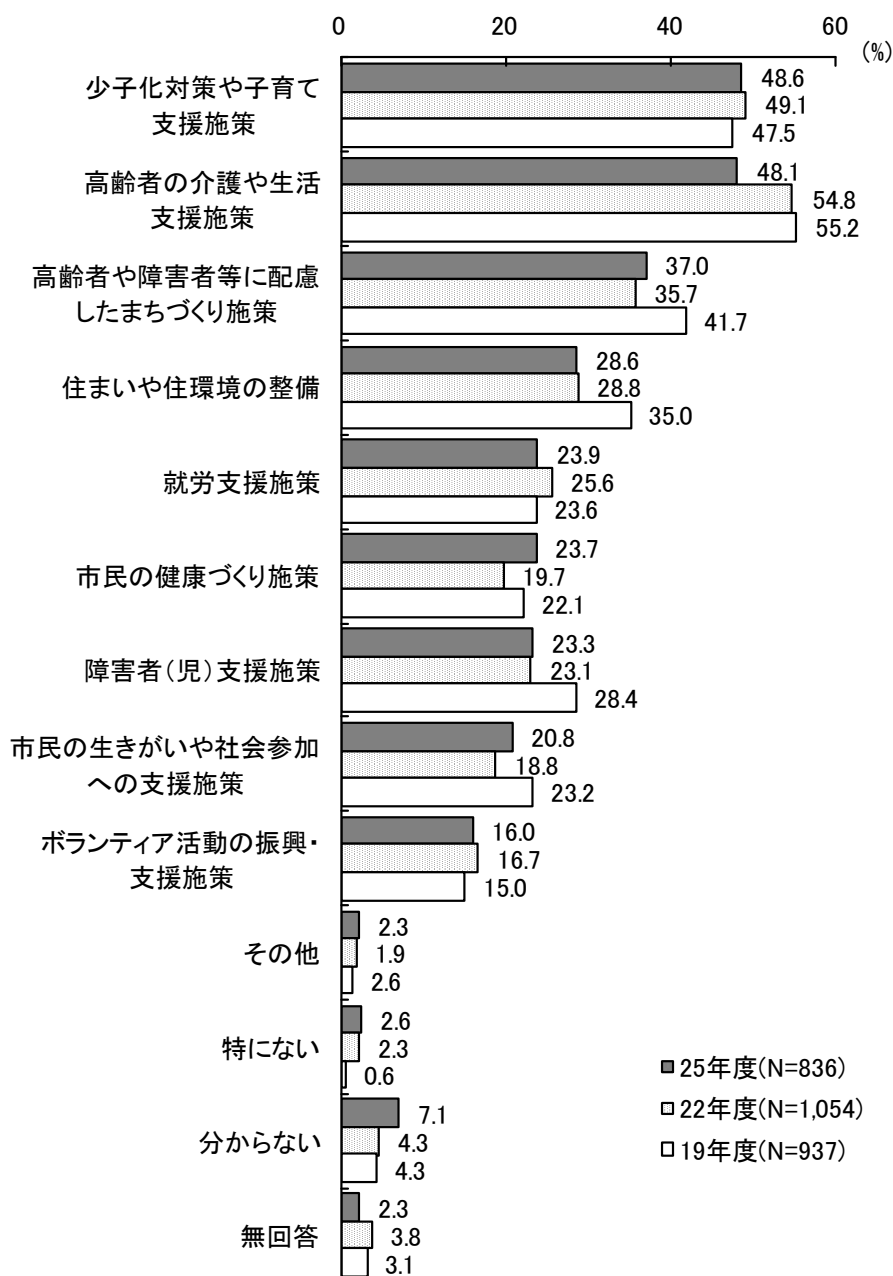
(5) 今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）（問 36）

問 36 調布市において、今後、特に力を入れていくべきと思う保健福祉施策（サービス）は何ですか。（いくつでも○）

今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）は、「少子化対策や子育て支援施策（48.6%）」が最も多く、「高齢者の介護や生活支援施策（48.1%）」、「高齢者や障害者等に配慮したまちづくり施策（37.0%）」が続いている。

前回調査と比較すると、各調査回とも「高齢者の介護や生活支援施策」が1位にあげられ、「少子化対策や子育て支援施策」が2位であったが、25年度では、「少子化対策や子育て支援施策（48.6%）」が「高齢者の介護や生活支援施策（48.1%）」をわずかに上回っている。

図表 1-52 今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）（全体：複数回答）【前回比較】





(6) 保健福祉施策（サービス）の充実のために重要だと思う取組（問37）

問37 調布市の保健福祉施策（サービス）をより充実していくために、あなたが重要と思う取組はどれですか。（いくつでも○）

保健福祉施策（サービス）の充実のために重要だと思う取組は、「相談や情報提供体制の充実（50.5%）」が最も多く、「住宅サービス（ホームヘルプサービス、デイサービスなど）の質と量の確保（37.7%）」、「入所施設サービスの質と量の確保（34.0%）」が続いている。

性・年代別にみると、男女ともどの年代も「相談や情報提供体制の充実」が最も多く、男性は40歳代と60歳代で、女性は10歳代と60歳代を除くいずれの年代も5割台となっている。

居住地域別にみると、第1地域で「相談や情報提供体制の充実」、「利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実」、「市民相互の助け合い・支え合い活動の活性化」の回答が他の居住地域に比べ高い回答となっている。

Ⅱ アンケート調査の結果

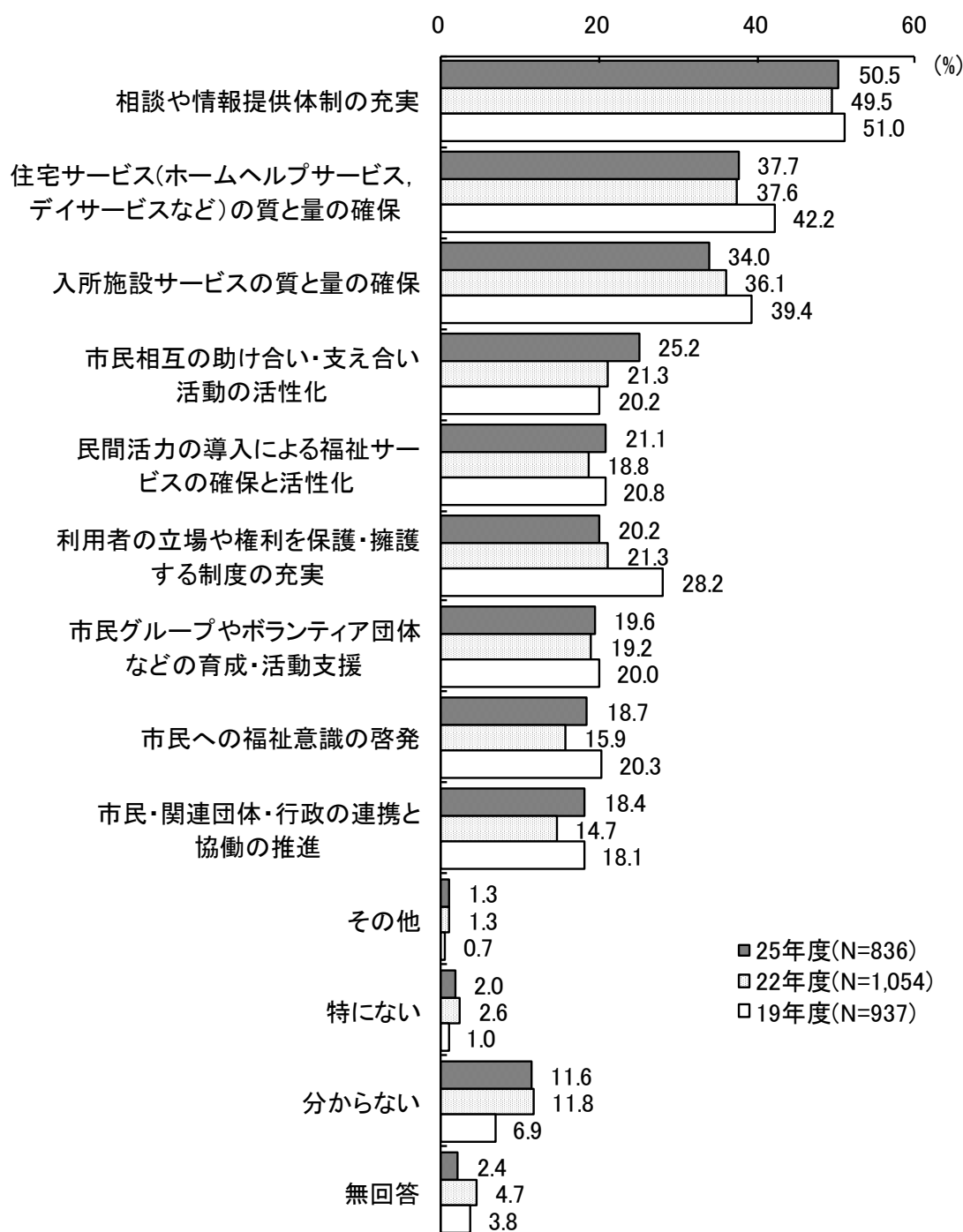
図表 1-53 保健福祉施策（サービス）の充実のために重要だと思う取組  
（全体、性・年代別、居住地域別：複数回答）

		充 実	相 談 や 情 報 提 供 体 制 の	量 の 確 保	サ ー ビ ス な ど の 質 と	住 宅 サ ー ビ ス へ ホ ー ム デ ィ ム	入 所 施 設 サ ー ビ ス の 質	支 え 合 い 活 動 の 活 性 化	市 民 相 互 の 助 け 合 い 化	活 性 化	福 祉 サ ー ビ ス の 導 入 に よ る 確 保 と	民 間 活 力 の 導 入 に よ る 確 保 と	充 実	保 護 ・ 擁 護 す る 制 度 の	利 用 者 の 立 場 や 権 利 を	成 ・ 活 動 支 援	市 民 グ ル ー プ や ボ ラ ン の 支 援		
全	体	(N=836)	50.5	37.7	34.0	25.2	21.1	20.2	19.6										
性・年代別	男性	10歳代	(n=9)	11.1	22.2	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1									
		20歳代	(n=44)	36.4	11.4	9.1	27.3	18.2	20.5	20.5									
		30歳代	(n=73)	42.5	27.4	23.3	23.3	24.7	11.0	11.0									
		40歳代	(n=107)	54.2	41.1	28.0	27.1	23.4	14.0	19.6									
		50歳代	(n=75)	49.3	36.0	33.3	26.7	21.3	21.3	20.0									
		60歳代	(n=46)	54.3	41.3	41.3	32.6	26.1	23.9	23.9									
	女性	10歳代	(n=17)	47.1	35.3	11.8	11.8	5.9	29.4	11.8									
		20歳代	(n=56)	57.1	35.7	17.9	37.5	16.1	14.3	25.0									
		30歳代	(n=113)	55.8	29.2	28.3	17.7	14.2	23.0	18.6									
		40歳代	(n=137)	52.6	48.2	46.0	23.4	21.2	16.8	24.1									
		50歳代	(n=94)	53.2	47.9	48.9	25.5	29.8	28.7	19.1									
		60歳代	(n=57)	47.4	40.4	56.1	28.1	21.1	31.6	15.8									
居住地域別	第1地域	(n=33)	66.7	45.5	39.4	36.4	18.2	33.3	27.3										
	第2地域	(n=103)	57.3	40.8	32.0	23.3	26.2	22.3	17.5										
	第3地域	(n=92)	45.7	46.7	38.0	26.1	23.9	17.4	23.9										
	第4地域	(n=44)	45.5	34.1	43.2	27.3	13.6	18.2	13.6										
	第5地域	(n=46)	45.7	37.0	50.0	28.3	26.1	28.3	19.6										
	第6地域	(n=109)	45.0	33.9	27.5	27.5	18.3	12.8	15.6										
	第7地域	(n=135)	51.1	39.3	33.3	29.6	22.2	23.7	20.0										
	第8地域	(n=113)	46.0	33.6	37.2	17.7	23.9	21.2	23.0										
	第9地域	(n=83)	57.8	28.9	19.3	25.3	13.3	21.7	14.5										
	第10地域	(n=63)	55.6	41.3	39.7	22.2	17.5	9.5	23.8										

		発 市 民 へ の 福 祉 意 識 の 啓	の 市 民 ・ 関 連 団 体 ・ 推 進 政	そ の 他	特 に な い	分 か ら な い	無 回 答		
全	体	(N=836)	18.7	18.4	1.3	2.0	11.6	2.4	
性・年代別	男性	10歳代	(n=9)	22.2	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
		20歳代	(n=44)	22.7	20.5	0.0	0.0	22.7	2.3
		30歳代	(n=73)	11.0	16.4	0.0	8.2	12.3	2.7
		40歳代	(n=107)	19.6	19.6	2.8	0.0	9.3	0.9
		50歳代	(n=75)	18.7	20.0	1.3	1.3	6.7	2.7
		60歳代	(n=46)	23.9	26.1	2.2	0.0	10.9	0.0
	女性	10歳代	(n=17)	11.8	11.8	0.0	0.0	29.4	0.0
		20歳代	(n=56)	21.4	17.9	0.0	0.0	12.5	0.0
		30歳代	(n=113)	17.7	15.9	1.8	1.8	15.0	6.2
		40歳代	(n=137)	16.8	19.0	1.5	1.5	10.9	0.0
		50歳代	(n=94)	20.2	20.2	2.1	4.3	4.3	6.4
		60歳代	(n=57)	19.3	17.5	0.0	3.5	10.5	1.8
居住地域別	第1地域	(n=33)	27.3	27.3	0.0	0.0	3.0	0.0	
	第2地域	(n=103)	22.3	22.3	1.0	1.9	7.8	1.9	
	第3地域	(n=92)	18.5	17.4	2.2	0.0	13.0	3.3	
	第4地域	(n=44)	18.2	20.5	0.0	2.3	9.1	6.8	
	第5地域	(n=46)	26.1	23.9	2.2	2.2	10.9	2.2	
	第6地域	(n=109)	11.9	11.9	0.9	4.6	11.9	1.8	
	第7地域	(n=135)	16.3	18.5	0.0	1.5	12.6	2.2	
	第8地域	(n=113)	16.8	18.6	2.7	2.7	15.0	1.8	
	第9地域	(n=83)	19.3	19.3	2.4	2.4	12.0	2.4	
	第10地域	(n=63)	23.8	14.3	1.6	1.6	11.1	1.6	

前回調査と比較すると、各調査回ともに「相談や情報提供体制の充実」が最も高くなっている。「利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実」は、19年度では28.2%、22年度では21.3%、25年度では20.2%と調査回ごとに低くなってきている。

図表 1-54 保健福祉施策（サービス）の充実のために重要だと思う取組  
（全体：複数回答）【前回比較】



### 10 市への要望（問 38）

「調布市民の福祉意識と地域生活に関する調査（市民調査）」において、調布市の地域づくりに必要なことや調布市の地域福祉施策についての要望・意見を自由記述形式でたずねたところ、226 件の回答があった。以下に主なものを掲載する。

#### (1) まちづくり・環境整備について（49 件）

- ・京王多摩川駅前の商店街が衰退してしまっていて、この駅のイメージは「川と競輪」だけ。もちろん、それもひとつの良さではあるけれどそれに融合されるように、もっと街が活性化されるように、商店街がまた活気のある場所になったらいいなと強く思う日々です。もっと住民の意見を出しやすい環境と気軽に参加しやすいイベント、人々と交流したくなるような雰囲気など、何か少しずつでも変わって行ければよいなと心から思います。（女性、20 歳代）
- ・赤ちゃんから高齢者まで気軽に立ち寄れる場所があるといいなと思います。みんながワイワイ仲良くなれたらいいですね。（女性、30 歳代）
- ・布田駅を利用していますが、自転車の駐輪場をしっかりと、多く作ってほしいです。近くでなければ意味がありません。よろしくお願いします。（女性、10 歳代）

#### (2) ボランティア活動・地域活動について（47 件）

- ・マンション住まいなので自治会に参加していませんが、マンションの自治会等で何らかの形で地域に根付いた生活は必要と思います。きっかけがあれば周りの方も参加すると思います。子どもがいない家庭だと、子どもからの地域のつながりが構築しづらくきっかけがありません。ふたり暮らしやひとり暮らし、高齢者のみの住まい等、少人数世帯にこそ、地域のつながりが大切だと思います。（男性、40 歳代）
- ・このアンケートに記入しながら、自分の所属する 10 人ほどの自治会の班のメンバーの顔もはっきりと認識していないことに改めて気づき、少し不安になりました。ほんの隣、4 軒くらいしか声を交わさないのです。忙しいのと元来の性格のせいでしょうか、残念な気もしますが、かといって積極的に動くのも億劫です。災害時予想訓練などあったら顔も覚えられるかなと思います。（女性、50 歳代）
- ・就業時から、ボランティア活動等の社会参加をしたい場合でも、夜間の講座等が非常に少ない。（女性、60 歳代）

#### (3) 子育て支援・少子化対策（25 件）

- ・保育園に入ることができたのでよかったです。入れず困る方が少しでもなくなっていくことを望みます。園も増えているので頑張っているのは感じておりますが、より誰もが困らない状況になれるよう取り組んでいただけたら幸いです。（女性、30 歳代）
- ・児童館を時々利用します。子どもが 1 歳ですが、赤ちゃん広場が週 2 回、2 時間だけなので、いつでも使えるような広場があると助かります。子ども家庭支援センターも何か所かあると便利です。（女性、30 歳代）
- ・高齢者向けのサービスは充実しているようですが、子育て・教育関連が足りないと感じます。義務教育就学児医療証も小学生は全員無料で医療費がかからないよ

うにしてほしいと思います（所得制限なしにしてほしいです）。（女性，30歳代）

**(4) 市の情報提供について（23件）**

- ・どんなに素晴らしい施策を立てても、それを必要としている人に伝わらなければ何もしていないのと同じになってしまいます。今、情報の受け取り方には大きな格差があります。インターネット（SNS）を活用している人、紙媒体を望む人、中には直接訪問して話をする必要がある人もいるかもしれません。きめ細かい情報伝達でより必要な施策が見えてくるかもしれません。市民が皆自発的に情報を収集するわけではないのですから、市の方で積極的に発信していただければと思います。（女性，40歳代）
- ・「市報ちょうふ」はとても分かりやすく集約された情報ツールであり活用させていただいています。ますますの充実を期待しています。（女性，10歳代）
- ・防災放送のスピーカーからの音声がかたも聞き取れないので、メール配信サービスやインターネット参照サービスがあると良いです。（男性，40歳代）

**(5) 保健福祉施策について（21件）**

- ・大規模な公共事業ではなく、マンパワーの育成（福祉事業化関連する人材育成）を重点とする福祉保健医療拡充施策に重点を置くことが、地域経済波及効果も期待できるので、切り替えるべきである。（男性，60歳代）
- ・福祉政策は進めるだけでなく無駄なものは見直して、削減してほしい。障害福祉サービスや介護保険での居宅サービスは本当に必要なものなのか、1件1件チェックする必要がある。（女性，50歳代）
- ・机上の論理ではなく、実際に必要としている人達が良かったと実感できる仕組みや制度、体制の構築を切に願います。（男性，40歳代）

**(6) 高齢者への支援・老後の不安について（16件）**

- ・高齢の母が近くにおりますが、介護のシステムが難しくて分かりにくく、これから先のことが不安。困ったとき、分からないことがある時に相談にのってくれる場があるとありがたいです。調布市は比較的充実していると感じます。（女性，40歳代）
- ・私の住んでいる地域は昔ながらの古い一軒家が多く、お年寄りだけで住んでいる家も少なくありません。特別子どもが少ないなどということはないですが、いずれ地域の高齢化が進んでしまうのではと不安に感じます。これから福祉サービスのより一層の充実をめざしていただき、老人も楽しく、安心して暮らせる地域づくりをお願いしたいです。（女性，10歳代）

**(7) 相談窓口・市職員への要望（11件）**

- ・一人ひとりにまず会うことが大切だと思います。地域を作るといっても目の前のひとりを大切にすることだと思います。一人ひとりの声をすい上げて下さい。市役所で待っているだけではダメだと思います。（女性，50歳代）
- ・それぞれの施策および各種関係部署とのつながりがほとんどないのが現状です。自分からできるだけ少しずつでもネットワークを広げてくれればなと思います。皆さま方の取り組み姿勢へ感謝します。（男性，60歳代）

### (8) アンケートについて (11 件)

- ・アンケートの結果が反映されることを期待します。(女性, 60 歳代)
- ・市内の福祉施策を考えるきっかけになりました。ありがとうございます。(女性, 40 歳代)

### (9) 経済的な支援等について (5 件)

- ・子ども手当の支給対象からぎりぎり外れてしまい、つらい。(男性, 40 歳代)

### (10) よく分からない (5 件)

- ・引っ越してまだ半年ほどなので、調布市の現状を把握できていないので回答が難しかったです。(男性, 50 歳代)

### (11) その他 (13 件)

- ・都合や事情で周りに頼れない、頼りたくない人がいると思います。そんな人たちが困っていることを知り助けることは難しいだろうと思いました。助けてと言えない、言える場所を知らない人へどうアプローチするのだろう、していけばいいのだろうと思いました。(男性, 60 歳代)